令和３年度
「障害者の生涯学習支援活動」に係る
文部科学大臣表彰

事例集

障害者の生涯学習を支える全国の取組を紹介

文部科学省　総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課　障害者学習支援推進室

令和３年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰
事例集の発行にあたって

文部科学省では、障害のある方々が一生涯にわたって自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の充実に向けた取組を進めています。

この取組の一環として、平成２９年度から、障害のある方の生涯学習を支える活動を行う個人又は団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対して、その功績を称える文部科学大臣表彰を行っています。

５回目を迎えた今年度も、全国から数多くの素晴らしい活動について御推薦をいただき、５８の個人及び団体の皆様を表彰いたします。５年間で３００件を超える皆様を表彰できましたことは、全国各地で障害のある方々の生涯にわたる学びを支える活動が認識され、その取組が着実に広がりを見せている結果であり、大変嬉しく思っております。

今回表彰された皆様の取組を、ぜひとも障害のある御本人様、保護者や支援者の皆様、都道府県、市区町村の障害者の学習支援に関わる皆様、社会教育、特別支援教育、障害福祉に関わる皆様など、幅広い方々に知っていただきたく、ここに１冊の事例集としてまとめました。この事例集を参考にして、障害のある方々の学びの場、機会がさらに広がることを期待しております。

最後に、本事例集の作成にあたりまして、表彰された皆様や都道府県、市区町村、関係団体等の皆様に多大な御協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

令和３年１２月

文部科学省
総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室長　清重　隆信

目　次

ページ	推薦者	受賞者の名称	一言ＰＲ	活動分野
1	北海道	大村　博	スポーツの楽しさを全ての人に ～初心者からトップレベルまで～	スポーツ
2	北海道	苫小牧市障がい者パソコンボランティア友の会	「共に学ぶ喜びを分かち合う」が モットーのパソコン教室	学習
3	青森県	小山内　敬子	障害者スポーツの支援及び普及活動の推進	スポーツ 学習
4	岩手県	社会福祉法人光林会「るんびにい美術館」	見る人の「命に触れる」アートの美術館	文化芸術
5	岩手県	特定非営利活動法人 アートで明るぐ生ぎるかわさき	笑顔と笑いある場づくりに！ あがるぐいぎましょう！	文化芸術
6	秋田県	潟上天王つくし苑	Let's WIN-WIN ～拡げよう 笑顔のサークル～	学習 スポーツ等
7	山形県	尾花沢ジュニアアスリートクラブ	障害の有無に関わらず 誰でも参加できるクラブ	スポーツ
8	茨城県	キャッチ・ボイス	情報をお届けします～声にのせて～	情報保障
9	千葉県	NPO法人スマイルクラブ	目指せ！！「スマイルタウン」	スポーツ
10	千葉県	一般社団法人AOAart	自閉症か、アートか？	文化芸術
11	東京都	練馬区聴覚障害者協会	聴こえない人々の言語を 知ってもらうために	学習
12	東京都	認定特定非営利活動法人トラッソス	スポーツを通じて、自分の居場所づくり	スポーツ 学習
13	東京都	渋谷区知的障害者教室（えびす・GAYA）	いつも誰にでも学びの場を	学習
14	東京都	葛飾区ボッチャ協会	心のバリアフリーを・ 誰でもスポーツが出来る環境を	スポーツ
15	神奈川県	アンサンブル麻生OBOG会	この子たちに一生の趣味を、一生の友を！	文化芸術
16	富山県	声のライブラリー友の会	声でとどける 読書の楽しみ	情報保障 文化芸術
17	石川県	手話サークル「積木の会」	伝える思い、伝わる喜び	学習 情報保障

ページ	推薦者	受賞者の名称	一言ＰＲ	活動分野
18	福井県	「みんなで舞台に立とう」を広げる会	障害のある人もない人も 「みんなで舞台に立とう」	文化芸術
19	福井県	わらいSHOKUDO	障害者の目線で考える、やさしい町づくり	学習 文化芸術
20	岐阜県	一般社団法人 みたけスポーツ・文化倶楽部	みんなで たのしく けんこうに	スポーツ 文化芸術
21	静岡県	特定非営利活動法人 藤枝光文庫	ボランティア養成事業・ 図書製作事業の一体化	文化芸術 情報保障
22	愛知県	朗読ボランティア声のたより	～ 声の情報 届けて４０年 ～	情報保障 学習等
23	愛知県	豊田市中央図書館 音訳・編集ボランティア	声の図書を届けます	学習 情報保障
24	京都府	トヨタカローラ京都株式会社	「ボッチャを応援します！」	学習 スポーツ
25	兵庫県	朝来市和田山生涯学習センター	障害のある人の「教育を受ける権利」と「人権の保障」を柱に取り組んでいます！	学習
26	奈良県	社会福祉法人わたぼうしの会 「たんぽぽの家」	地域に開かれた自己表現と交流の拠点	文化芸術 学習等
27	奈良県	奈良県点訳グループ　青垣会	１点１点がつながる ～心の触れあいを大切に～	情報保障 学習
28	和歌山県	社会福祉法人　一麦会	「学び合う そして 創り合う」	学習 スポーツ等
29	岡山県	ゆうあいネットPCVOL	ICT活用で視覚障害者に情報保障を！	情報保障
30	広島県	朗読録音グループ「声の友」	ローカル情報から医学書まで ～声の友の活動～	情報保障 学習
31	広島県	HBG重度・重複障害児スポ・レク活動教室 「はなまるキッズ」	重度・重複障害児が地域で参加可能な「スポーツの場」を作りたい！	スポーツ
32	山口県	山口県点訳音訳ボランティア連絡会	点訳と音訳に興味のある方、 一緒に学んでみませんか？	情報保障
33	徳島県	さくら学級	「さくら学級」で楽しい休日！	スポーツ 文化芸術
34	徳島県	布川　利彦	「生涯スポーツ」 ～スポーツの楽しさを伝える～	スポーツ

ページ	推薦者	受賞者の名称	一言ＰＲ	活動分野
35	愛媛県	伊予地区精神保健ボランティアグループ しおさい	心の交流を深めよう	社会参加促進
36	愛媛県	音訳ボランティア　もみの木	音訳を通して、心の交流を広めよう！	情報保障
37	福岡県	キャンバス	『キャンバス』は笑顔いっぱい	スポーツ 文化芸術
38	福岡県	遠賀手話の会	手話は言語！！ ～バリアを理解し、共に学ぼう～	学習 情報保障
39	大分県	社会福祉法人　太陽の家	No Charity,but a Chance！ ～保護より機会を～	学習 スポーツ
40	宮崎県	やまびこ	楽しみにしている人のために、 点字新聞を届けたい。	情報保障 学習
41	仙台市	本人・若年認知症のつどい「翼」	「翼」は出会いの場 ～仲間と一緒に楽しく、元気に！～	学習 文化芸術等
42	さいたま市	音訳グループ木曜会	半世紀近く続く 音訳グループのパイオニア	情報保障 学習
43	浜松市	ぺんぎん村水泳教室	水の力がもたらす笑顔と感動 ～可能性をあきらめない～	スポーツ 学習
44	大阪市	一般社団法人　大阪市視覚障害者福祉協会	出会いと交流 ～視覚障害者の福祉と文化向上のために～	情報保障 学習等
45	全国特別支援教育 推進連盟	同窓会旭出あおば会	～いつまでも学びの場を！旭出あおば会～	学習 スポーツ等
46	全国特別支援教育 推進連盟	富山市手をつなぐ育成会 「みんなの青年の会」	ひとりじゃないよ、みんな集まれ！	学習 スポーツ等
47	全国特別支援教育 推進連盟	日本ハンドサッカー協会	どんなに障害が重くても、 誰もが一緒に楽しめる！ ハンドサッカー！！	スポーツ
48	日本パラスポーツ協会	特定非営利活動法人 日本視覚障害者柔道連盟	組んだ瞬間、見える ～柔道を通じて培う心と体～	スポーツ 学習
49	日本パラスポーツ協会	特定非営利活動法人 日本ブラインドマラソン協会	視覚に障害がある人もない人も、 共に楽しく走りましょう	スポーツ 学習
50	全国芸術系大学 コンソーシアム	齋藤　啓子（武蔵野美術大学）	アートを通じて その人の物語を知ってほしい	文化芸術
51	全国芸術系大学 コンソーシアム	福島　治（東京工芸大学）	アートを通じ 障害者の社会参画と生き甲斐の創出を	文化芸術

ページ	推薦者	受賞者の名称	一言ＰＲ	活動分野
52	2020年東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ﾈｯﾄﾜｰｸ	東京ふうせんバレーボール振興委員会	みんな笑顔に！	スポーツ 学習
53	筑波大学	たいそう教室	誰もが主役！　スポーツって楽しい	スポーツ
54	名古屋大学	ちくさ日曜学校	学生と学級生が共に学び合える憩いの場	学習 文化芸術
55	大阪体育大学	大阪体育大学　わくわくアダプテッド・スポーツクラブ	「からだを動かすって楽しい！」と 誰もが感じられるように	スポーツ
56	愛媛大学	愛媛大学教育学部附属特別支援学校 同窓会（虹の会）	生活経験の拡大を図る ４５年にわたる継続的な活動	学習 スポーツ等
57	福岡大学	福岡大学	「観る」「支える」「体験する」 「挑戦する」	スポーツ
58	九州ルーテル学院大学	九州ルーテル学院大学　金曜教室	毎週金曜日の発達障害のある 児童生徒への支援	学習

スポーツの楽しさを全ての人に～初心者からトップレベルまで～

■ 活動する地域

北海道苫小牧市

■ 氏名

大村　博

■ 基礎データ

継続年数	３９年間
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校、スポーツ団体等
団体の規模等	

活動の概要

地域の障害者を対象にしたボッチャやパラアイスホッケーなどの体験会・教室を企画し、スポーツに親しむ機会が少ない障害者に競技のルールや基礎的な技術の指導を行うほか、パラリンピックのパラアイスホッケーの日本代表チームの監督として、入賞に導く等、障害者のスポーツを幅広く支え、裾野の拡大に取り組んでいます。

■ 活動の内容

地域の障害者を対象にしたボッチャやパラアイスホッケー（旧アイススレッジホッケー）などの体験会・教室を企画し、スポーツに親しむ機会が少ない障害者に競技のルールや基礎的な技術などの指導を行い、スポーツの魅力を伝え、親しむきっかけを提供しています。

また、パラリンピックのパラアイスホッケーの日本代表チームの監督を２大会連続で務め、５位入賞を果たしたほか、全国障害者スポーツ大会では、北海道選手団のスタッフや陸上競技監督として選手の競技参加のためのサポートや技術力向上など、国内や国際大会の運営と競技の両面で幅広く携わっています。

長年の取組は、初心者からトップレベルまで幅広い競技レベルの障害者のスポーツを支えるとともに、数多くの種目の障害者スポーツの普及、認知度の向上、スポーツの魅力や楽しさを子どもから大人まで幅広い年代に広めることにつながっています。

写真２　　パラスポーツ体験会の様子

写真１　　パラアイスホッケー教室の様子

■ 活動の経緯・体制

苫小牧市心身障害者福祉センターの体育指導員として、障害者向けのスポーツ体験会・教室の企画・運営に携わるようになり、その後、国内や国際大会のスタッフや監督も務めるなど、活動の領域を広げ、幅広い競技レベルの障害者スポーツに関わってきました。現在も地域で障害者スポーツの普及に取り組んでいます。

■ 活動の効果・普及状況

地域での障害者スポーツの体験会や教室は、初心者がスポーツを始めるきっかけとなっています。

また、長年の活動で得た障害者スポーツに関する知識やノウハウ等を若手指導者・選手に教授し、障害者スポーツに携わる人材の育成、スポーツの裾野の拡大につなげています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

「共に学ぶ喜びを分かち合う」がモットーのパソコン教室

■ 活動する地域

北海道苫小牧市

■ 団体名

苫小牧市障がい者パソコンボランティア友の会

■ 基礎データ

継続年数	２０年間
活動分野	学習
主な対象	すべて
主な連携先	社会福祉法人、病院・保健所、行政等
団体の規模等	役員８名、事務局員２名、会員４名

活動の概要

障害者の社会参加に向けたICTに関する学習機会の充実・支援のため、苫小牧市とパートナーシップ協定を締結し、視覚障害、肢体不自由の方々のための「障がい者パソコン教室」を開催しています。学びやすく効果的なカリキュラムを構築し、一人ひとりに応じたパソコン活用技術の学習を支援しています。

■ 活動の内容

障害者の社会参加に向けたＩＣＴの活用方法の学習支援を行っています。

具体的には、視覚や肢体に障害のある方のためのパソコン教室をそれぞれ１教室、年間各１５回程度開催しています。パソコン教室では、一人ひとりの障害に合わせた装置を使用し、カリキュラムも学びやすく効果的になるように工夫しながら、学習支援活動を行っています。

学習内容としては、年賀状や家計簿などを、画面読み上げソフトやパソコン内のアクセシビリティ（利用のしやすさ）機能を使って作成します。また、スマートフォンやタブレット端末を障害者が使用する方法など、実生活での活用が期待できる知識・技術の学習支援にも取り組んでいます。

活動を通じて、障害者との交流、ボランティア自身の技能の向上にもつなげていき、団体の基本方針である「共に学ぶ喜びを分かち合う」活動を目指して取り組んでいます。

写真１　画面読み上げソフトを使った視覚パソコン教室

写真２　重度障害の方も学ぶ肢体パソコン教室

■ 活動の経緯・体制

国や苫小牧市教育委員会による障害者対象のIT講習の支援ボランティアが、その後の団体の結成、苫小牧市とのパートナーシップ協定の締結につながり、現在の活動へと続いています。また、社会福祉協議会や病院等と連携し、幅広くパソコン教室への参加の呼びかけを行っています。

■ 活動の効果・普及状況

障害のある方が、文書作成や計算など実生活での活用が期待できるソフトウェアの操作方法や障害に対応したタブレット端末やスマートフォンの操作方法を学ぶことにより、日常生活の利便性向上につながっています。また、視覚障害者の在宅学習支援として、声の出るテキスト（テキストデイジーCD)の配布も好評です。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

事務局メールアドレス：toru.t.pasobora@gmail.com

障害者スポーツの支援及び普及活動の推進

■ 活動する地域

青森県

■ 氏名

小山内　敬子

■ 基礎データ

継続年数	２３年間
活動分野	スポーツ、学習
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校等
団体の規模等	

活動の概要

障害者上級スポーツ指導員等、多くの資格を取得し、その資格を生かして障害者スポーツの支援及び普及活動を行っている。また、スポーツイベントで手話通訳者として運営を支える他、新たな障害者スポーツチームの結成や青森県障害者スポーツ協会設立にも尽力し、多数のイベント・体験教室の企画運営に携わっている。

■ 活動の内容

平成１０年に障害者初級スポーツ指導員の資格を取得後、これまでに障害者上級スポーツ指導員、障害者フライングディスク公認指導者２種、トランポリン公認普及指導員等、多くの資格を取得し、その資格を生かして障害者スポーツの支援及び普及活動に当たっています。

また、平成１１年に開催された青森県スポーツ立県記念イベントでは手話通訳者として運営を支えるとともに、障害者スポーツボランティアの育成にも率先して取り組んでいます。

さらに、トランポリン、ボッチャ、フライングディスク等、新たな障害者スポーツチームの結成や普及活動、障害者スポーツの組織的な競技活動の支援に貢献するとともに、青森県障害者スポーツ協会の設立に尽力し、現在は同協会の理事として、数多くのイベント・体験教室の企画・運営に携わっています。

写真１　　スポーツ体験教室の様子

■ 活動の経緯・体制

青森県身体障害者福祉センターに勤務したのをきっかけに、障害者の生きがいや健康づくりを支える障害者スポーツ活動に携わるようになりました。ボッチャ、フライングディスク等の体験普及教室に指導員として参加し、スポーツを通じた障害者と健常者の交流や障害者スポーツの理解と普及活動に尽力しています。

■ 活動の効果・普及状況

障害者がスポーツ活動を行うことが、健康維持・体力向上はもちろん、自立心や生活力の向上、生きがいにつながっています。また、県内各地で行われている研修会や普及活動により、地域住民等の障害者や障害者スポーツへの理解を深め、障害者スポーツ団体やボランティア活動の活性化につながっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

平成１０年に開催された長野パラリンピックでは、青森県から出場した選手の競技活動を支えました。

写真２　青森県ユニバーサルスポーツ大会表彰式の様子

見る人の「命に触れる」アートの美術館

■ 活動する地域

岩手県

■ 団体名

社会福祉法人光林会
「るんびにい美術館」

■ 基礎データ

継続年数	１３年間
活動分野	文化芸術
主な対象	知的障害、精神障害
主な連携先	特別支援学校、小中高校、社会福祉法人、行政（文化振興）
団体の規模等	3名（アートディレクター、美術系職員、生活支援員）

活動の概要

障害者芸術に気軽に触れられる美術館として、企画展を多数開催するなど、継続して障害のある作者が創造した表現作品等の展示をしている。また、併設しているカフェやベーカリーで障害のある人がスタッフとして働くなど、芸術分野にとどまらない活躍の場を提供している。

■ 活動の内容

障害者芸術に気軽に触れられる場の創設を目的として創設した美術館で、開館以来、企画展を多数開催するなど、障害のある作者が創造した表現作品等の展示を行っています。美術館の２階には障害のある人たちが制作活動を行うアトリエを設けており、作家と来館者が気軽に交流できる場として大変好評です。

また、美術館に併設しているカフェやベーカリーでは、障害のある人たちがスタッフとして働いており、文化芸術にとどまらず、障害のある人たちに自己表現や働くことを通じた人生の充実を提供できるように支援を行っています。

館内での取組に加え、障害のある作家を講師とした出前形式の授業「であい授業」を、小学校、中学校、高校、大学、図書館、高齢者大学等で実施するなど、障害のある本人のことをより理解してもらう取組を行っています。

写真１　　ギャラリー展示風景

■ 活動の経緯・体制

社会福祉法人光林会が昭和43年から運営している知的障害児施設「ルンビニー学園」を母体として、平成19年11月に県内で初めての障害者の表現活動の拠点・発表の場「るんびにい美術館」を開館しました。社会福祉法人光林会が運営を行っており、アートディレクター等と連携して支援活動を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

館内での企画展だけではなく、アトリエで創作された作品を県内外にも貸出・展示しており、岩手県が開催している障害者芸術に係る展覧会にも多くの作品を出展しています。当該展覧会のアンケート調査の結果によると、障害者芸術の認知度は年々向上しており、障害者芸術の理解醸成や普及につながっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

https://kourinkai.net/museum-lumbi/

写真２　美術館２階アトリエ「まゆ～ら」活動風景

笑顔と笑いある場づくりに！あがるぐいぎましょう！

■ 活動する地域

岩手県一関市川崎町

■ 団体名

特定非営利活動法人
アートで明るぐ生ぎるかわさき

■ 基礎データ

継続年数	１６年間
活動分野	文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	一関市、社会福祉協議会等
団体の規模等	正会員２１名、賛助会員６７名

活動の概要

地域の高齢者、障害者の市民アート交流事業と障害者の自立と社会参加を目指す「工房てんとう虫」運営事業を中心として、だれもが住み慣れた地域で笑顔で暮らせるよう「あがるぐいぎる！」をモットーに地域交流の輪の拡大に取り組んでいます。

■ 活動の内容

一関市から地域活動支援センターⅢ型「工房てんとう虫」を受託し運営しています。精神障害のある方が軽作業や創作活動に取り組み、ボランティアや地域住民と交流しています。当初から絵画、書道、粘土創作に取り組み、地元の文化祭、イベントでの発表や「ひろしまの書道展」への出品を目標に活動してきました。また、ギャラリーのご協力で平成21年から毎年、展覧会「てんとう虫・展」を開催し令和3年度で13回目になりました。さらには作品をもとに絵葉書やメモ帳等を作成し道の駅やイベント時に販売しています。市から障害者アート交流事業「てんとう虫教室」を受託し、地域住民と障害のある方が調理実習と創作活動で交流を深めています。あわせて介護予防高齢者アート交流事業も市から受託し、地域の集まりにアート交流としておじゃまし、高齢者とご家族、介護予防に取り組む住民の方にアート体験を楽しんでいただいています。

写真１　　てんとう虫教室　絵画創作

写真２　「てんとう虫・展13」　会場にて

■ 活動の経緯・体制

工房てんとう虫は平成14年に家族会が設立。その後家族の高齢化、市町村の合併などの課題から、地域のボランティアが中心になり平成17年に当法人を設立し、工房てんとう虫事業を引継ぎました。法人化してからは一関市や他の団体とも連携を深め、活動を拡大しています。地域から沢山の応援をいただいています。

■ 活動の効果・普及状況

障害のある方が創作活動を通じて自分の思いを表現でき、また作品を発表することで家族や地域の方から褒められる機会が増え、自信をつけています。てんとう虫教室には川崎町以外の障害者も参加し、地域住民の方と顔見知りとなって気軽に声をかけあっています。高齢者の方は障害のある方の活躍が励みになるようです。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

年２回広報誌を作成し広報活動に取り組んでいます。

Let's WIN-WIN ～拡げよう 笑顔のサークル～

■ 活動する地域

秋田県潟上市

■ 団体名

潟上天王つくし苑

■ 基礎データ

継続年数	２年間
活動分野	学習、スポーツ、文化芸術等
主な対象	知的障害
主な連携先	公民館、行政、高等学校等
団体の規模等	施設職員８名、ボランティア約15名

活動の概要

障害者が定期的・継続的にテーマ性をもって学べるプログラムを実施しており、参加者は多くの人との交流を通じてコミュニケーション力を伸長させるとともに、大切な自己実現の機会になっている。特に、高校生ボランティアが継続して参加しており、障害の有無を越えた同世代交流や障害理解につながっている。

■ 活動の内容

潟上天王つくし苑は、秋田県南秋田郡を中心に展開している、「社会福祉法人　南秋福祉会」の施設の一つです。

主に潟上市内の公民館を活用して、定期的（概ね月１回土曜日）な生涯学習講座やイベントを実施しています。活動には近隣の３高校から高校生のボランティアが参加し、障害の有無を越えた同世代交流が行われています。

主な活動としては、スポーツ（ボッチャ・卓球バレー・創作ダンスなど）、調理（餅つき・だまこ鍋・カレー・クリスマスケーキなど）、文化活動（国際交流、地域の祭りへの参加、ミュージカルなど）が行われています。

また、令和２年度からは、コロナ禍により体験的な活動が難しくなったことを背景に、座学（仲間づくり・環境問題の学習など）の活動も取り入れ、日常生活に必要なスキルを学べる機会も設けています。

写真１　　令和３年度　活動のオープニング

写真２　　高校生ボランティアの活動の様子

■ 活動の経緯・体制

平成30年度から、それまで施設の利用者が休日に行っていた活動を、外にも募集の幅を広げ、生涯学習講座として体系化して実施しています。

運営や企画は施設の職員が中心となり、活動時は高校生ボランティアが参加しています。また、市内の特別支援学校や公民館の協力を得ながら活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

参加者が主体的に講座に参加できるようになり、コミュニケーション力の向上にも効果が見られます。

高校生ボランティアの参加が定着し、参加者は交流を楽しみにしているほか、高校生たちも障害者や福祉への理解・関心が深まっています。施設の職員にとっても、支援力や関わり方の向上につながっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

社会福祉法人　南秋福祉会ホームページ
http://www.n-fukushikai.net/

障害の有無に関わらず誰でも参加できるクラブ

■ 活動する地域

山形県尾花沢市

■ 団体名

尾花沢ジュニアアスリートクラブ

■ 基礎データ

継続年数	１７年間
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	スポーツ団体、尾花沢市
団体の規模等	会員５１名、指導者６名

活動の概要

陸上競技のスポーツ少年団として「障害の有無に関わらず誰でも気軽に参加できるクラブ」の理念のもとで活動を続け、障害者が気軽にスポーツに参加できる環境を整えている。このクラブをきっかけにジュニアパラピッククラブも設立され、世代を超えて障害のある人達が様々な活動に参加している。

■ 活動の内容

陸上競技のスポーツ少年団として、障害の有無に関わらず、週２回程度の練習の他、週６回の中・長距離種目の朝練習を行っています。勝つことや競技性だけを追い求めるのではなく、障害のある子ども達が気軽にスポーツを楽しめる場を提供し、陸上競技だけにとらわれず個々の良さを見出し長所を伸ばす取り組みや健常者と障害者が一緒に活動できる工夫を行っています。また、クラブの運動会を開催し、保護者も交えて楽しく交流する機会を設けたり、年２回の社会貢献活動を行ったりしています。

クラブの活動をきっかけとして、さらに多くの障害者にスポーツを楽しんでもらいたいという思いから、障害のある子ども達がクロスカントリースキーやハイキングなどの体験活動を年５～６回行うジュニアパラピッククラブが設立されました。尾花沢ジュニアアスリートクラブは、このパラピッククラブと連携して、様々な体験活動やボランティア活動に一緒に取り組んでいます。

写真１　尾花沢ジュニアアスリートクラブのメンバー

写真２　元気おばね『絆』駅伝大会の様子

■ 活動の経緯・体制

2004年に普通のスポーツクラブとして設立しましたが、クラブの活動の中での障害のある子ども達との関わりを通して、障害のある子ども達が地域で気軽にスポーツをする環境がないことに気づき、この理念のもと活動するようになりました。現在は、障害者も指導者に加わり活躍しています。

■ 活動の効果・普及状況

クラブの活動により、スポーツを通して障害者が各地域のイベントや行事に参加する機会が増えています。特に、尾花沢市で開催されている「元気おばね『絆』駅伝大会」には、クラブ会員が選手やスタッフとして多数参加し、地域住民の方々と交流を図り、多くの人が障害者への理解を深める機会になっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

12月５日（日）、障害のある方は誰でも参加できるレクレーション大会開催予定！（ボッチャ・フリスビー等）

情報をお届けします～声にのせて～

■ 活動する地域

茨城県かすみがうら市

■ 団体名

キャッチ・ボイス

■ 基礎データ

継続年数	２４年間
活動分野	情報保障
主な対象	視覚障害
主な連携先	行政等
団体の規模等	会員７名

活動の概要

視覚障害者や福祉施設へ、広報誌の音訳CDの提供や朗読等を行っています。
「キャッチ・ボイス」のサークル名のとおり、声を一方的に届けるのでなく、キャッチボールのように双方向でのやりとりができるように工夫しながら活動しています。

■ 活動の内容

広報誌の音訳や福祉施設等へ訪問し朗読や紙芝居活動等を行っています。

広報誌の音訳は、音訳CD「声の広報かすみがうら」として市内の視覚障害者や高齢者施設へ発送するほか、市内公共施設に配置しています。福祉施設等での朗読や紙芝居活動は、利用者との楽しい時間を共有でき、会員にとっても楽しみな時間となっています。また、市内の他音訳サークルと合同で朗読発表会を実施しています。朗読の息吹を身近に感じていただけると同時に、聴いている方々のご意見を知る貴重な機会となっています。

毎月第３木曜日に「声の広報かすみがうら」製作の打ち合わせを目的として、定例会を開催しています。さらに、会員の朗読技術向上のため、朗読セミナーの受講や、毎月第２土曜日に勉強会を開き朗読練習を行っています。

肉声による音訳は、長時間の聴取にも疲れないことや、ぬくもりが感じられる等から好評の声をいただいています。

写真１　広報誌音訳の様子

写真２　音訳活動を終えて

■ 活動の経緯・体制

平成９年に社会福祉協議会が主催した朗読講習会の受講者により、翌年１月に「キャッチ・ボイス」を立ち上げました。同年４月から音訳ボランティア活動を開始し会員同士が協力し合い２０年以上活動を続けています。

現在では、他の音訳サークルと協力をして広報誌音訳を隔月交代で行っています。

■ 活動の効果・普及状況

音訳CDは、市内の視覚障害者にとって、イベント等を含めた様々な情報を得る大切な機会となっており、市内福祉施設における朗読・紙芝居活動は、利用者の楽しみとなっています。

また、活動を通して、会員が様々な情報に接することができ、新たな気づきや発見につながっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

目指せ！！「スマイルタウン」

■ 活動する地域

千葉県

■ 団体名

NPO法人スマイルクラブ

■ 基礎データ

継続年数	２０年間
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学等
団体の規模等	理事長1名、理事9名、指導者20名、事務2名

活動の概要

自閉症児の母親からの相談をきっかけに、発達障害児の運動教室を開催した。鉄棒や跳び箱、風船バレーなどの種目を中心に、障害の有無にかかわらず一緒に活動するインクルーシブ形式の講座を開講している。また、パラバドミントン出前授業を全国各地の社会体育施設や学校等で２０回実施している。

■ 活動の内容

障害者も健常者も身近にスポーツを楽しめる環境づくりや障害者も高齢者も笑顔の生まれる街づくり「スマイルタウン」を目指し、既存事業の運営とともに新規事業の立ち上げ等、活動の安定性や広がりに期待がもてます。また、障害者と健常者の混合運動指導や障害児を対象とした放課後デイサービス事業等、スポーツを通した多様な活動に取り組み、障害者の学びについて積極的に活動を行っています。

文部科学省、スポーツ庁の委託事業を受託し、積極的に地域における障害者スポーツの拠点づくりや地域の関係団体との連携を深め、障害者スポーツの振興を推進しています。

パラバドミントン元日本代表選手を講師に招聘し、全国の学校、社会体育施設にて出前授業を行い、地域の障がい者スポーツ協会等職員が補助スタッフとして加わり、参加者が能動的に参加できるようにしています。

写真１　　チャレンジスポーツ教室

■ 活動の経緯・体制

ＮＰＯ法人スマイルクラブは、体育教師であった現理事長が、自閉症児の母親から「学校の体育授業についていけないので、自分の子どもを見てほしい」との依頼があったことから、平成１０年に任意団体として発達障害児の運動教室を開催したことがルーツになっており、２０年以上活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

パラバドミントン出前授業は拠点としている柏市他、全国各地で計２０回実施され、参加者は、小学生から一般に至るまで総計1700名以上になりました。また、事業の開催に際し、大学や開催県、開催市の障がい者スポーツ協会の協力、開催県の後援を得る等、地域の関係機関と連携し、障害者の学びの場の普及ができました。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

http://smile-club-npo.jp

写真２　　パラバドミントン出前教室

自閉症か、アートか？

■ 活動する地域

千葉県流山市

■ 団体名

一般社団法人AOAart

■ 基礎データ

継続年数	７年間
活動分野	文化芸術
主な対象	自閉症
主な連携先	東京都自閉症協会
団体の規模等	役員６名　ボランティア８名　参加家族１０名

活動の概要

自閉症者の絵画制作をサポートする「制作ワークショップ」を定期的に行い、絵画指導をしながら、それぞれの自閉症クリエイターの個性を生かした質の高い作品制作を目指して活動しています。展覧会やイベントの開催、アート作品や関連物の販売事業を通じて、自閉症の人達のアート活動を広く社会へと発表しています。

■ 活動の内容

毎月開催するワークショップでは、自閉症を抱える、絵を描くことが好きな子どもたちに対して、絵を描きやすい環境を用意し、一人ひとりの個性を活かした作品づくりをサポートしています。そうしたアート活動支援の一環として、地域の公共施設と連携した展覧会を開催したり、講演会や自閉症を理解するワークショップを実施するなど、自閉症に対する理解を深める活動もしています。AOAartの活動で常に意識しているのは、AOAartでアート活動している彼らの作品は美術的に有意義で豊かな表現力を持っており、作品は自由で美しく、作品に現れている表現は彼らの個性であり、自閉症という障がいは乗り越えるべき「害」ではない、ということです。自閉症の特性には様々なサポートや理解が必要ですが、そうした支援があれば豊かな表現が生まれる可能性を秘めており、ひとつひとつ生まれた作品は、作品を生み出した彼らや彼らの家族を勇気づけ、積極的な生涯学習への関わりを生み出しています。

写真２　2019年開催の作品展の展示場写真

写真１　2019年のコロナ前のワークショップの様子

■ 活動の経緯・体制

定期ワークショップ、展覧会、自閉症啓発デーでのイベント参加など数多くの事業を実施。現在は毎月１回、オンラインでのワークショップを開催。対面でのワークショップでは、要支援者１名に対し、ボランティア1名を配置し、絵画指導に画家の藤島大千がアドバイスをする体制で実施しています。

■ 活動の効果・普及状況

活動年数を重ねると作品がどんどん進化し、様々なアート作品が生まれました。また活動に理解を示す団体との共同企画も生まれ、sweet heart project 実行委員会とのコラボ企画で福祉工房のお菓子商品のパッケージにアート作品が採用されました。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

https://aoaart.or.jp/

聴こえない人々の言語を知ってもらうために

■ 活動する地域

東京都練馬区

■ 団体名

練馬区聴覚障害者協会

■ 基礎データ

継続年数	５３年間
活動分野	学習（練馬区手話講習会）
主な対象	すべて
主な連携先	手話サークル練馬こぶし会
団体の規模等	運営委員８名、講師１０名、助手３０名

活動の概要

手話講習会を通じて、手話言語を理解する区民の育成に努めています。聴覚障害への理解を広げ、生涯学習活動をはじめとする障害者の社会参加促進に４７年にわたり取り組んできました。障害者当事者団体と健常者の手話サークルが連携したこの取り組みは、多様な障害者の活動にも発展しています。

■ 活動の内容

練馬区手話講習会では、手話について広く理解を深め、手話通訳者や手話ボランティアの育成に努めるとともに、手話言語をコミュニケーション手段としている聴覚障害者の生活自立と社会参加を促進させることを目的としています。

入門編となる「初級クラス」や手話の基本や応用を学ぶ「中級クラス」「上級クラス」の３つのクラスでは、1年間でカリキュラムを履修し、手話ボランティアを育成します。また、練馬区登録手話通訳者を目指す方のための「手話通訳者養成クラス」、障害当事者の方のための「中途失聴者難聴者クラス」も開設しています。

各クラスとも聴覚障害者協会と手話サークル練馬こぶし会、計３名体制で講習を行っています。講習会では、手話の技術を習得するとともに聴覚障害当事者と手話によるコミュニケーションを取り、当事者の経験を直接聞くことができます。そのため、手話技術だけでなく、深く聴覚障害者福祉について学ぶことができる場となっています。

写真１　手話講習会（中級クラス）の様子

写真２　手話講習会（中途失聴者難聴者クラス）の様子

■ 活動の経緯・体制

昭和４９年から聴覚障害者協会が手話講習会の自主運営を始めました。現在は練馬区の意思疎通支援事業として、聴覚障害者協会が受託しています。

聴覚障害者協会と手話サークル練馬こぶし会とが連携し、初級から手話通訳者養成まで各５クラス（昼・夜の部、計１０クラス）の講習会を開催しています。

■ 活動の効果・普及状況

①手話サークル練馬こぶし会とともに、広く手話言語を理解する区民の育成に取り組んでいます。
②毎年280名近い受講生が手話言語の理解を広め、それと共に聴覚障害者の障害理解が進んでいます。
③開講以来、多くの修了者や手話通訳者を輩出し、聴覚障害者福祉の向上に貢献してきました。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

手話を普及するための活動として、区内小学校へ出向いて、小学生向けの手話講習も行っています。

スポーツを通じて、自分の居場所づくり

■ 活動する地域

東京都江戸川区

■ 団体名

認定特定非営利活動法人トラッソス

■ 基礎データ

継続年数	１５年間
活動分野	スポーツ、学習
主な対象	知的障害、発達障害
主な連携先	特別支援学校
団体の規模等	正規２名、非常勤２名、正会員３０名、登録ボランティア４８名

活動の概要

知的障害児・者を対象として、誰もが笑顔で楽しめることをこころがけ、都内を中心にサッカー教室をはじめとする様々な活動を15年間行っている。今年度で14回目を迎える「全日本知的障害児・者サッカー競技大会」は、毎年各都道府県から2,000名近くの選手団やボランティアが参加し、全国の障害児・者に届く大会となっている。

■ 活動の内容

主に知的障害・発達障害のある子どもから大人までのサッカースクール及びクラブチームを、都内中心に運営しています。現在129名の生徒が在籍し、自立と自主性を基に社会参画につながるスクールやクラブ活動を行っています。また、同団体では、指導者派遣や出張教室を年間100回以上実施し、障害児・者がどこでもスポーツを楽しめるように広域的に普及啓発活動を展開しています。こうした活動の広まりもあり、同団体の主催する「全日本知的障害児・者サッカー競技大会」は、毎年各地から大勢の選手団やボランティアが参加しています。現在では、この大会をもとに、他県でも同様の大会が開催されるようになりました。

その他にも、地域の方、児童や学生、企業に向けた交流大会などを実施し、実際に触れ合いながら、ダイバーシティ・インクルーシブの大切さを考えていただけるよう活動も展開しています。

写真１　全日本知的障害児・者サッカー競技大会の様子

■ 活動の経緯・体制

設立当初、知的障害・発達障害児のスポーツ活動はほとんど行われていませんでした。定型発達のお子さんは毎日と言っていいほど、スポーツ環境が身近にありました。障害のある子どもたちと一緒にスポーツを楽しみにたいという想いをもったメンバーが集まり、活動をスタートさせました。

■ 活動の効果・普及状況

地域に根差した活動から全国規模の大会まで幅広く、「やりたくなるサッカー」をモットーとして自主性や自発性を大切に活動しています。その結果、スポーツが、参加者の大切な居場所となっています。また、大会や派遣を通して同団体の活動を知ってもらうことで、会員や派遣先が増えています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

ホームページはこちら　https://tracos.jp/

写真２　スクールのサマーキャンプの様子

いつも誰にでも学びの場を

■ 活動する地域

東京都渋谷区

■ 団体名

渋谷区知的障害者教室
（えびす・GAYA）

■ 基礎データ

継続年数	４１年間
活動分野	学習
主な対象	知的障害
主な連携先	NPO法人シブヤ大学、青山学院高等部ボランティア部等
団体の規模等	両教室合計　運営委員１４名　ボランティア３６名

活動の概要

障害の程度を問わない当事者の主体性を大事にすることをコンセプトに活動を展開。音楽や調理、クラフトなどの体験学習、地域NPOや学校、地域住民との交流、本人活動など、参加者のニーズや地域を意識し、共に学び、体験することを大切にしている。コロナ禍でもオンライン開催・動画配信など、継続した学びの機会を模索している。

■ 活動の内容

渋谷区知的障害者教室は開設当初から地域住民や学生、福祉・教育関係者が中心となり、当事者に寄り添った運営を行なってきました。えびす青年教室」の活動からは、誰もが自由に交流、学習しあう「たまり場」の開設、遠距離で教室に参加しづらい人たちに学習活動の場を提供するグループ活動の立ち上げなどへと展開をしてきました。「GAYA」はそうした活動の積み重ねの上に開設されました。当時、一人で通うことができるなど参加条件を設ける青年教室が多い中、参加したい人は誰でも参加できるよう条件を緩和したり、「えびす」と「GAYA」どちらも選べるよう地区割ではなく社会参加の機会の拡大を目指しました。さらに「GAYA」で始まった障害当事者による本人活動などを含め、その先導性、発展性、有効性がうかがえるものとして文科省主催の「超福祉の学校」や「共に学び、生きる共生社会コンファレンスIN関東甲信大会」で実践例として取り上げられています。

写真１　コロナ禍に負けず、オンライン交流！（えびす）

写真２　コロナ前のメンバー大集合（GAYA）

■ 活動の経緯・体制

保護者の強い要望で学校教育終了後の青年期の社会教育活動として発足。社会教育館が活動のための環境整備を行い、プログラム企画や参加者への対応を行う運営委員会（地域住民、学生、障害者施設職員など）が企画運営を担っています。活動日には高校生をはじめ地域の様々な人たちがボランティアとして参加しています。

■ 活動の効果・普及状況

参加者の行いたい事を大切にし、さまざまな分野の講師による活動を展開することで、障害の有無に関わらず、参加者誰にとっても学びの場となっています。また、本人活動のメンバーを中心に、さまざまな場で、研究者との共同研究などの自分達の活動を発表、本人中心で活動を展開することの大切さを社会に伝えています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

渋谷区HP 文化・芸術講座案内
facebookで各教室とも情報発信中

心のバリアフリーを・誰でもスポーツが出来る環境を

■ 活動する地域

東京都葛飾区

■ 団体名

葛飾区ボッチャ協会

■ 基礎データ

継続年数	２年間
活動分野	スポーツ団体
主な対象	すべて
主な連携先	スポーツ団体、社会福祉法人他
団体の規模等	会員４８名

活動の概要

地域の様々な団体と連携しながらボッチャ体験会や大会を開催している。地域福祉・障害者センター、障害者生活介護施設では、ボッチャの普及だけでなく、障害者に対するスポーツの機会の提供、交流の場の提供という大きな役割を担っている。

■ 活動の内容

体験会や講習会を実施して、ボッチャを地域に広めるとともに、障害者に対するスポーツの機会の提供や交流の場を提供しています。その一つとして、青年の知的障害者が通所する東堀切くすのき園で月２回のペースで練習会を実施しています。また、協会には障害のある方も在籍しており、脳原性四肢障害のある方、重軽度の障害のある方も一緒にボッチャを楽しんでいます。

地域への取り組みでは、区内の小学校での体験会や地区の高齢者クラブへの出前教室などを開催しています。また、葛飾区教育委員会から委託を受けて、レクリエーションボッチャ教室や指導員養成講座、交流大会を運営をしています。区内に止まらず、ダイバーシティパークIN新宿のボッチャ体験会への応援や東京カップといった近隣開催の大会に積極的にチーム参加するなど、ボッチャの普及と機運盛り上げにも努めているところです。

写真１　　東堀切くすのき園の練習会の様子

■ 活動の経緯・体制

葛飾区ではかねてからボッチャ交流大会を実施する等、ボッチャの普及に取り組んでおり、一層の普及のため葛飾区スポーツ推進委員が発起人となって団体を設立しました。現在４８名の会員で活動中です。車いすユーザーが８名、四肢障害、上肢障害のある方５名、知的障害のある方１名が在籍しています。

■ 活動の効果・普及状況

少人数の体験会にも積極的に足を運んでいますが、参加者と同人数のスタッフでマンツーマンでの指導を行っていると、ボッチャへの関心が日増しに高くなっていることを直接感じています。また、この１０月にはひと月に３名の方が協会に入会するなど、協会の活動に賛同する方の入会も増えております。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

Facebook　葛飾区ボッチャ協会

写真２　　ボッチャ交流大会の様子

この子たちに一生の趣味を、一生の友を！

■ 活動する地域

神奈川県川崎市

■ 団体名

アンサンブル麻生OBOG会

■ 基礎データ

継続年数	１２年間
活動分野	文化芸術
主な対象	知的障害・肢体不自由等
主な連携先	特別支援学校、文化芸術団体等
団体の規模等	指導者１２名、会員家族５５名

活動の概要

特別支援学校で共に学んだ仲間が、学校卒業後も集まり、学生時代に初めて手にしたヴァイオリンやフルートの練習を続け、レッスンの成果を地域のコンサートなどで発表しています。特別支援学校の先生やプロの演奏家がボランティアで指導を続けてくださり、演奏者も聴衆も笑顔がこぼれる「心温まるコンサート活動」を続けています。

■ 活動の内容

アンサンブル麻生OBOG会は、神奈川県立麻生養護学校高等部アートコースの音楽グループの卒業生とその家族が集まり、音楽活動を生活の楽しみの一つとして続けている団体です。

学校で学んだ事や音楽を奏でる喜びを、私たちなりに皆さんに届けたいと、月１回程度特別支援学校等に集まり練習を続けています。練習には、学校の先生や認定NPO法人ミュージック・シェアリングの先生も参加してくださり、コンサートでは私たち一人ひとりの持ち味が生かせるように選曲やアレンジを工夫してくださっています。発表会という目標を毎年掲げることで、舞台で自分を表現する緊張感と充実感を楽しんでいます。

毎年地域の「ユニヴァーサルコンサート」に在学生と一緒に出演しています。また「ミュージック・シェアリング合同コンサート」に参加し、サントリーホールや国立新美術館の１階エントランスホールの舞台に立たせてもらいました。

写真１　　演奏終了後の記念写真

■ 活動の経緯・体制

音を出すだけでも大変でしたが、初めて奏でたヴァイオリンやフルートの音色に感動し、楽器を扱う作法やコンサートの裏方作業等から多くの事を学びました。卒業する頃には自分の楽器を持ち、演奏を続けたいと願うようになりました。そこで、保護者を中心にOBOG会を立ち上げ、周囲の支援を頂き12年間活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

川崎市麻生区の「ユニヴァーサルコンサート」や療育センターのお祭り等に在校生と一緒に出演しています。地域の皆さまから「感動した」と声をかけて頂き、小中学校の児童生徒や障害児者やご家族に「障害があっても楽しく生きてるよ」と示す機会になっています。「好きなことを続ける－趣味－」の大切さも伝えています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

写真２　　地域のコンサートに出演

声でとどける　読書の楽しみ

■ 活動する地域

富山県富山市

■ 団体名

声のライブラリー友の会

■ 基礎データ

継続年数	５０年間
活動分野	情報保障、文化芸術
主な対象	視覚障害
主な連携先	図書館、行政、社会福祉法人等
団体の規模等	５８名

活動の概要

視覚障害者の読書活動を支援するボランティア団体である。50年にわたり、3700タイトルを超える録音図書を製作して富山市立図書館に納めている。

市報や市社協広報等の音訳も行い、視覚障害者の情報保障に貢献。音訳ボランティア養成講座では講師を務め、音訳者の育成に尽力している。

■ 活動の内容

視覚に障害のある方に読書の楽しみを届けるため、小説等の図書を音訳した「録音図書」（DAISY・テープ）の製作を行っています。

音訳作業は、会員の自宅や図書館、市社会福祉協議会等の録音作業室で行います。完成した録音図書は、会の発足当初は県盲学校（現県富山視覚総合支援学校）へ納めていましたが、昭和48年からは富山市立図書館の蔵書として、広く貸出しています。

また、視覚障害者の情報保障のため、市が発行する「障害福祉のしおり」の音訳のほか、市報・市社会福祉協議会からのお知らせ・新聞のコラム等を１枚のＣＤに納めた「声のライブラリー友の会ＣＤマガジン」を毎月発行し、利用者への発送作業も行っています。

音訳活動の他、視覚障害者に関わるボランティア活動として、利用者交流会、文化祭、福祉機器展、歩行訓練会等への参加も行っており、利用者の声を聴きながら日々活動しています。

写真１　音訳作業の様子

写真２　全体研修会の様子

■ 活動の経緯・体制

昭和46年にNHK・KNB（北日本放送）放送劇団出身者により発足した歴史ある音訳ボランティアグループです。毎年、図書館が開催する音訳ボランティア中級養成講座の受講修了者を会員として受入れ、現在58名の会員が活動しています。定期的に全体研修会を開催し、音訳技術の向上に取り組んでいます。

■ 活動の効果・普及状況

富山市立図書館の録音図書利用者が、声での読書を楽しんでいます。録音図書は、図書館間相互貸借で他図書館にも提供しています。

市報をはじめとした行政刊行物の音訳は、視覚に障害のある方の情報格差の解消につながっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

伝える思い、伝わる喜び

■ 活動する地域

石川県七尾市

■ 団体名

手話サークル「積木の会」

■ 基礎データ

継続年数	４５年間
活動分野	学習・情報保障
主な対象	聴覚障害
主な連携先	行政、手話関係団体等
団体の規模等	会員２２名

活動の概要

聴覚障害者と共に学び合いながら交流し、イベントへの参加や学校・地域での手話体験講座を推進するなど、聴覚障害への理解及び手話の普及啓発を行っている。毎週行われている定例会が聴覚障害者との情報交換の場でもあり、聴覚障害者が自身の手話を活用し豊かな生活を送ることができるよう活動を続けている。

■ 活動の内容

毎週木曜日に定例学習会を開催し、手話の技術研鑽に励むとともに、聴覚障害者が取得しにくいニュースや、地域の出来事などの身近な話題について、手話で聞くことができる学び（情報交換）の場を提供しています。

「積木の会」設立40周年大会や平成14年に七尾市で開催された生涯学習フェスティバルでは、聴覚障害者とともに手話歌を披露したほか、市のろうあ協会主催のボウリング大会や救急救命の講座等にも参加するなど、様々な取り組みを聴覚障害者とともに行っています。

また、自治体の福祉イベントに参加し手話体験コーナーを設けるほか、小学校出前手話講座の手話指導やケーブルテレビ手話啓発番組制作への協力、地元の田鶴浜高等学校に対して手話パフォーマンスの指導を行うなど、聴覚障害者とともに積極的に手話への理解・普及啓発を行い、聴覚障害者の基本的人権の擁護と社会参加の促進に寄与しています。

写真１　ふれあい福祉まつり　手話体験コーナーの様子

写真２　小学校出前手話講座の様子

■ 活動の経緯・体制

手話を必要とする聴覚障害者がいる限り、何度崩れても壊れても、また誰かと誰かが積み上げていく、そんな願いを込めて昭和51年に聴覚障害者宅で手話サークル「積木の会」を立ち上げました。会長はじめ役員を設置し、学習班・レクレ班・情報班の3つの班が手話学習、年間行事、情報誌発行などの企画・運営を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

耳から入る情報を取得しにくい聴覚障害者への情報提供、イベントや講座等を通して聴覚障害者の社会参加に協力する一方、聴覚障害者の協力により手話の技術向上が図られるなど、お互いに連携・協力ができています。

サークルが関わる行事やイベントを通じ、地域住民への理解や普及が進んでいます。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

毎週木曜日19：00～七尾市フォーラム七尾で定例会開催

障害のある人もない人も「みんなで舞台に立とう」

■ 活動する地域

福井県福井市ほか

■ 団体名

「みんなで舞台に立とう」を広げる会

■ 基礎データ

継続年数	１６年間
活動分野	文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	ＮＰＯ法人福井芸術・文化フォーラム
団体の規模等	実行委員12名、参加メンバー40名

活動の概要

特別支援学級・学校の児童生徒、卒業生と、その人たちの表現に魅力を感じ共に表現したいと思う人たちが集まって、和太鼓やダンスなどの表現活動をしています。毎年２５回程度のワークショップを経て自主公演を行っており、これまで１５回開催されています。また、他団体のイベントなどにも年間10回程度出演しています。

■ 活動の内容

表現することが好きな障害のある方たちを中心に置きつつ、その人たちとともに表現したい人たちが、年間25回程度のダンスや太鼓などのワークショップを行い、年１回自主公演を行っています。2021年3月で15回目となりました。それに加えて、年に10回程度、いろいろなイベントに出演しています。近年は国体の開会式式典や、県外のイベントにも出演しました。

定期的に活動に参加できない方、体験してみたい方向けに、月に1回の「ツキイチダンス」、絵画や造形が好きな方向けに不定期で「スキナトキアート」と称し、県内外の作家の作品展とアートワークショップを行っています。

また、障害のある人、ない人の相互理解を促し、共生社会の一助となることを目的に、有識者の講演やプロのダンサーのワークショップなどを、主催または共催で2～3年に一度のペースで行っています。

写真１　　15周年の公演より

■ 活動の経緯・体制

障害のある人の表現に魅力を感じ、一緒に表現できる舞台発表の場を求めていた代表が、同じ思いを持つ人たちと立ち上げたのが当会のはじまりです。以来、保護者やボランティアなどの有志からなる実行委員会形式で運営しており、今年で17年目を迎えます。

■ 活動の効果・普及状況

自分の好きな和太鼓・ダンスを、大きな舞台、多くの観客の前で発表することで、参加者の社会参加が促進され、自信をもち、生き生きとした生活をすることができます。また、障害のある人とない人の相互理解を高め、共生社会の一助となることが期待できます。参加しているメンバーは福井県嶺北地方全域に及びます。

写真２　　県外イベントへの出演の様子

■ その他（団体紹介や参考情報等）

ホームページはこちら
https://minabuta.jimdofree.com/

障害者の目線で考える、やさしい町づくり

■ 活動する地域

福井県永平寺町

■ 団体名

わらいSHOKUDO

■ 基礎データ

継続年数	４年間
活動分野	学習、文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	小学校、中学校、公民館等
団体の規模等	１７名

活動の概要

障害のある方たちが参画するボランティア団体です。小学校における福祉教育への協力、町内のバリアフリーチェック、障害者目線で考える防災訓練などの活動を行っています。他にも「ヘルプマーク」の普及活動を積極的に行い、障害への理解と、助け合いによるやさしい町づくりに尽力しています。

■ 活動の内容

障害のある方たちが参画し、小学校での福祉教育への協力、町内のバリアフリーチェック、障害者目線で考える防災訓練などの活動を行っています。他にも「ヘルプマーク」の普及活動を積極的に行い、障害への理解と、助け合いによるやさしい町づくりに尽力しています。

ふれあいフェスタ2018にてボランティアを兼ねての福祉教育のブースを開設したり、令和元年度福祉総合相談事業第1回公開セミナー「みんなでつくる　やわらかい永平寺町」の協同実施を担ったりと、様々な活動を行っています。行政の福祉計画や学校での福祉教育に携わることで、障害者の社会参画に高い効果をもたらしています。

写真１　　小学校での福祉教育の様子

■ 活動の経緯・体制

障害のある方から様々な相談を受ける中、周りとの関わりが薄く孤立しやすい声があった為、もっと障害者も交流できる機会を設け、活動を通じながら社会貢献の機会を創出する活動に発展。代表者を含めた３名を中心にその時々の活動やイベントを企画し、メンバーと一緒に活動。現在もメンバーやボランティアを募っています。

■ 活動の効果・普及状況

障害のある方は、社会的に弱者としてみられがちですが、自分たちも健常者と同じよう地域貢献していきたいという思いを持って活動することで、生活の中でのモチベーションを高く保つことができます。当初は関係者のみで実施していましたが、活動が町民の間でも知られるようになり、参加や協力の申し出が増えてきています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

写真２　　避難計画づくりへの協力

みんなで　たのしく　けんこうに

■ 活動する地域

岐阜県御嵩町

■ 団体名

一般社団法人
みたけスポーツ・文化倶楽部

■ 基礎データ

継続年数	１０年間
活動分野	スポーツ・文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	日本赤十字社、御嵩町民生委員協議会等
団体の規模等	理事５名・職員３０名・会員400名

活動の概要

障害者に対してもスポーツの発展と理解を深めていただきたく「ひかりの広場」を年４回程開催している。ボッチャ、太鼓、ダンスなど、様々な生涯活動を一般の方と障害者が共に体験する事で、障害の有無に関わらないスポーツの普及に貢献している。

■ 活動の内容

みたけスポーツ・文化倶楽部では子どもから高齢者まで、スポーツ・文化活動を通じて「健康づくり、仲間作り、生きがいづくり」の応援ができるよう、様々な種類の講座、内容で日々活動しています。

その中で障害者と共に障害スポーツを体験する「ひかりの広場」を年４回程開催し、これまでスポーツに参加できなかった障害者の活動の場を広げ、障害者に対する理解促進へとつなげています。

自然環境に恵まれたこの御嵩町で、子どもたちや青年、高齢者や障害を持った方たちが、健康づくり、仲間作り、生きがいづくり、そして地域や世代間の活発な交流による地域コミュニティの再生や強化などの効果を得られるよう、楽しく、健康に生き生きと活力あふれるまちづくりや、この地に住みつづけたいと思えるまちづくりに資するとともに、青少年の健全育成に寄与できればと考えています。

写真１　「ひかりの広場」盆踊りの様子

写真２　「ひかりの広場」　ダンスの様子

■ 活動の経緯・体制

元々は障害者に対して鵜飼や太鼓などの文化活動をしていましたが、障害者スポーツが文部科学省により位置付けされた事に伴い、障害者がスポーツに参画することができる環境整備のために、県の支援を受け、障害者と一般の方をつなぐ支援として開催しています。

■ 活動の効果・普及状況

◆これまでスポーツに参加できなかった障害者の活躍の場へとなっています。

◆参加者だけでなく、町の民生委員やスポーツ推進委員等の協力により、障害者に対する理解促進と障害者スポーツへの関心・意欲・理解の向上、共生社会づくりの推進を図っています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

http://mitasuma.jp/

ボランティア養成事業・図書製作事業の一体化

■ 活動する地域

静岡県藤枝市

■ 団体名

特定非営利活動法人 藤枝光文庫

■ 基礎データ

継続年数	４０年間
活動分野	文化芸術・情報保障
主な対象	視覚障害者
主な連携先	近隣の高校・大学
団体の規模等	文庫員11名、一般奉仕者35名

活動の概要

読書活動をはじめとする視覚障害者の生涯学習の機会を保障するため、近隣の学校に通う学生や地域住民で構成する点訳ボランティアが、点字絵本等を製作し、視覚特別支援学校や福祉施設に寄贈している。また、地域の学生に対して点字に関する講習会を企画運営し、点字及び点訳の知識を学び、視覚障害への理解を深める場を提供している。

■ 活動の内容

本法人は、視覚障害者の情報保障と点字に対する普及啓発を主な目的として、長年にわたり点字書物の発行や点訳ボランティアの養成に取り組んできた。

ボランティアによって製作された点字絵本、点字歌集、点字カレンダーは、全国の視覚特別支援学校や福祉施設に寄贈され、子供から大人まで視覚障害者の読書活動等の機会を支えている。

また、地域の高校生や大学生向けの点訳講習会は、単に点字や点訳について学ぶだけでなく、障害者や共生社会の理解など広く福祉的な意識を醸成し、受講生のキャリア形成の一助になっている。受講生の中には、受講後に点訳ボランティアとして点字絵本や点字歌集の製作に携わり、新たな担い手として活動を支える学生も出ている。

これらの活動は、視覚障害者の生涯学習を支えるとともに、福祉の視点を持った若年者を地域社会へ輩出し、地域に根ざした持続可能な運営につながっている。

写真２　カレンダー製作の場面

写真１　絵本製作の場面

■ 活動の経緯・体制

視覚障害者が読める書物の不足や点字の普及が進まないことにより情報保障の機会が失われてしまうという懸念から、視覚障害者に対する福祉の向上と点字の普及啓発を目的として、昭和56年に活動を開始した。活動当初より、地域住民が本活動を支え、現在は文庫員11名と一般奉仕者35名が活躍している。

■ 活動の効果・普及状況

点訳活動により、情報保障の補助、読書を通した文化的活動の保障が得られ、視覚障害者の福祉の増進に寄与している。また、地元の学生への点訳指導は、点字の普及、視覚障害の理解だけでなく、障害に対する福祉の精神を育む役目を果たしている。地道にではあるが、本活動やその意義を地域へ着実に普及させている。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

点訳ボランティア等の活動に興味がある方は、ぜひ御連絡ください。

～　声の情報　届けて40年　～

■ 活動する地域

愛知県津島市

■ 団体名

朗読ボランティア声のたより

■ 基礎データ

継続年数	４０年間
活動分野	情報保障、学習等
主な対象	視覚障害者
主な連携先	行政、病院、社会福祉法人等
団体の規模等	８名

活動の概要

視覚障害者の情報保障のため、市の広報誌や市議会だよりなど、生活に必要な情報の音声訳を作成している朗読録音ボランティア団体です。

視覚障害者の情報交換の機会「ふれあい茶話会」を毎年開催するなど、４０年にわたって視覚障害者の生活や学習活動を支援しています。

■ 活動の内容

朗読録音活動を通じて、視覚障害者等の福祉の向上に寄与することを目的に活動しています。

主な活動は、津島市発行の広報紙「市政のひろば」や「津島市議会だより」、津島市民病院発行の「院内報つしま」の音声訳テープの作成と、市役所等公共施設へのテープ設置及び希望者への配布です。

平成14年から令和元年までの期間は、地域の視覚障害者の情報交換の機会となる「ふれあい茶話会」を開催してきました。

平成14年から平成26年までの期間は、地域の障害者通所施設のイベントに参加し、劇やアナウンスの協力を行ってきました。

そのほか、津島市平和祈念事業「平和のつどい」での遺稿朗読の協力参加、冊子『海部津島のむかしばなし』を録音し市内小学校等にテープを寄贈するなど、朗読録音活動を通じた幅広い事業で地域に貢献しています。

写真１　　録音前の打ち合わせ・盲人郵便の発送準備

写真２　　録音作業の様子

■ 活動の経緯・体制

昭和56年６月の国際障害者年を機に、津島市から委託を受け有志で視覚障害者等に対する「声のたより」事業を発足し、令和３年で活動40周年となります。

現在は津島市総合保健福祉センターの録音室で、会員８名で活動を行っています。定期的な録音活動のほか、自主研修会により音訳技術の向上に取り組んでいます。

■ 活動の効果・普及状況

利用者は、行政サービス情報や福祉関係情報等を聴きたいときに音声で聴くことができ、大変喜ばれています。40年の長年にわたり、地域の視覚障害者の方の「目の代わり」となって、情報を音声で伝えるという貴重な役割を担っています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

声の図書を届けます

■ 活動する地域

愛知県豊田市

■ 団体名

豊田市中央図書館
音訳・編集ボランティア

■ 基礎データ

継続年数	２２年間
活動分野	学習・情報保障
主な対象	視覚、肢体、要介護
主な連携先	サピエ図書館
団体の規模等	音訳２８名、編集５名

活動の概要

図書館が所蔵する本や新聞等を音訳・編集して録音図書を製作し、愛知県豊田市在住の視覚障害者等に提供しています。製作した録音図書は、サピエ図書館を通じて全国の視覚障害の方にも利用されています。

■ 活動の内容

豊田市中央図書館で音訳・編集ボランティアとして活動しています。図書館で選書された本や音訳リクエストのあった本、利用者が特別に希望する文章等の録音図書の製作を行っています。他にも、毎月発行している「障がい者コーナーだより」や、中日新聞の記事を継続的に音訳・編集しています。製作した録音図書は豊田市中央図書館の所蔵資料として、利用者に提供しています。また、市外在住の方でも利用ができるように、サピエ図書館等を通じて他館への貸出も行っています。

希望者には対面での音訳も行っています。対面音訳では会議資料やコミック等、図書館に所蔵のないものなども音訳しています。

毎月開催する勉強会や図書館が開講する講座への参加を通して、ボランティアの音訳・編集の技術や処理のスキルアップに努めて活動を続けています。

写真１　2019年音訳ボランティア養成講座

写真２　2020年音訳ボランティアレベルアップ講座

■ 活動の経緯・体制

1998年11月に現在の豊田市中央図書館が開館した際、旧図書館から行っていた障害者サービスを更に向上させる為に、障がい者サービスコーナーを立ち上げました。旧図書館時代は多くのボランティア団体と協力して活動を行っていましたが、新図書館開館からは、図書館に個人としてボランティア登録する現在の形となりました。

■ 活動の効果・普及状況

ボランティアの積極的な活動により、実際に録音図書を利用された方からは、完成度の高い図書であると評価をいただいています。

令和２年度の録音図書製作：２４タイトル
中日新聞ニュースの追跡：５０回分
対面音訳：１１回

■ その他（団体紹介や参考情報等）

ホームページ　https://www.library.toyota.aichi.jp

「ボッチャを応援します！」

■ 活動する地域

京都府内

■ 団体名

トヨタカローラ京都株式会社

■ 基礎データ

継続年数	４年間
活動分野	学習　スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	（一社）京都障害者スポーツ振興会　等
団体の規模等	担当部署７名

活動の概要

年齢・性別・障害の有無にかかわらず、多くの方が一緒のルールで楽しむことができるボッチャ。ボッチャを通じて「つながり」ができ、「つながり」が広がっていくことを目的にボッチャの普及活動に取り組んでいます。京都府中のみんながつながって京都府という地域全体が盛り上がることを目指しています。

■ 活動の内容

ボッチャを通じて、地域の皆様の「つながり」を増やせることを目指しています。ボッチャは年齢・性別・障害の有無を問わず一緒に競技ができ、そのことがお互いの理解につながると思っています。ボッチャを「みんなが生涯を通して一緒にできるスポーツ」と捉えて普及活動をおこなっています。

2017年より、体験会・講習会・講演会やボッチャイベントのお手伝いを、学校関係の皆様や企業・医療・福祉など様々な団体様と一緒に開催してまいりました。2020年にトヨタカローラ京都杯京都ボーダレスボッチャ大会を開催し約260名の方が参加されました。ボッチャというきっかけにより紡がれた「つながり」が新しい「つながり」をつくり、障害の有無に関係なく、誰もが共に暮らせる社会（共生社会）の実現を目指し活動しています。

写真１　第一回京都ボーダレスボッチャ大会開幕

■ 活動の経緯・体制

ボッチャを通じて地域のつながりを増やし地域を盛り上げたいという思いから、トヨタカローラ京都の事業として2017年よりボッチャの普及活動を開始しました。

京都障害者スポーツ振興会、京都ボッチャ協会、城陽ボッチャ協会等と連携協力し体験教室や大会を催しています。

■ 活動の効果・普及状況

活動をはじめた2017年には10回程度のボッチャイベントにとどまりましたが、年々体験会や講習会の依頼は増えつづけ、京都府内にボッチャファンが増えてきました。2020年に260名が参加される大会を開催できるようになったのはその結果だと思います。

写真２　向日市ボッチャチャレンジ

■ その他（団体紹介や参考情報等）

トヨタカローラ京都のホームページ
https://www.corolla-kyoto.com/

障害のある人の「教育を受ける権利」と「人権の保障」を柱に取り組んでいます！

■ 活動する地域

兵庫県朝来市

■ 団体名

朝来市和田山生涯学習センター

■ 基礎データ

継続年数	１７年間
活動分野	学習
主な対象	知的障害、発達障害
主な連携先	特別支援学校、相談支援事業所
団体の規模等	運営スタッフ等　２０名

活動の概要

知的障害のある人の学ぶ場、生涯学習を通して「教育を受ける権利」と「個人の発達」を保障した「人権の保障」を基本に、地域での学ぶ場として『カレッジ』と銘打って講座を開設しています。また、地域の人と一緒に学ぶことができるよう、講師やボランティアを地域の人にお願いし、日常生活に必要なノウハウを楽しく学んでいます。

■ 活動の内容

年５回の講座で『健康学』『家庭学』『運動学』『経済学』『防犯学』など、様々なジャンルを学んでおり、特に詐欺や危険薬物等の犯罪から身を守る手立てや、お金の使い方・金融機関の利用方法など、生活に直結した内容をひと工夫して実施してきました。『栄養調理学』『美術学』では、簡単な献立で、自宅で一人でも作ることのできる食事や、バッグに絵を描いて”世界に一つだけのバッグ作り”に取り組みました。コロナ禍でも学びを止めず、工夫して楽しく学ぶようにしています。企画運営は、市民のスタッフと一緒に行い、当日は市民ボランティアの力も借りて進めており、ボランティアは無くてはならない存在です。知的障害があっても地域で生活し続けることができるように、地域の人々に知的障害を理解してもらい見守りと支援者になってもらえるようにとの願いも込めています。『楽しく学ぶ』をモットーに、身近な日常生活にアクセントを加えることができるよう活動しています。

写真１　栄養調理学「和食で一汁二菜の食事を作る」（調理包丁を使って）

写真２　美術学「オリジナルのバッグを作ろう」（アイロンがけ）

■ 活動の経緯・体制

福祉関係団体と連携し平成15年に準備企画し翌年から講座として開始。プログラムは、目的や目標を明確にして年間計画を立て、自立に向けた生活全般を網羅させています。企画運営スタッフには障害者支援に従事する市民が参画。ボランティアは養成も兼ねて募集し、共に学び合うことで障害の理解を深める仕組みとしています。

■ 活動の効果・普及状況

当初は包丁を持つこともできなかった受講生が、今ではみじん切りなどもできるようになっています。継続して様々な経験を通してできることが増えており、受講生の出席率も高く、多くの笑顔がみられます。受講生は特別支援学校などの生徒や卒業生も加わって年々増え、福祉施設入所者の参加もあり余暇活動にもなっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

朝来市生涯学習課では、視覚障害、聴覚障害の支援等に様々な形で取り組んでおります。

地域に開かれた自己表現と交流の拠点

■ 活動する地域

奈良県　奈良市他

■ 団体名

社会福祉法人わたぼうしの会
「たんぽぽの家」

■ 基礎データ

継続年数	３４年間
活動分野	文化芸術、学習、情報保障
主な対象	すべて
主な連携先	企業・大学、文化芸術団体等
団体の規模等	スタッフ５５名、メンバー６１名

活動の概要

たんぽぽの家はオープン当初から、誰もが学べる、教えられる「たんぽぽ自由学校」を開設し、学習交換することで障害のある人とない人がつながり、新たな人間関係と可能性を生み出すことを目的としていました。現在、コミュニティ・カレッジに引き継がれて、地域の人の多様なプログラムや障害のある人のプログラムを運営しています。

■ 活動の内容

「たんぽぽの家」は、身体障害者自立援助センターとして1980年にオープンしました。2004年には、アートをとおして自由に自分を表現し、互いの感性を交感することができるコミュニティ・アートセンター「たんぽぽの家アートセンターHANA」としてリニューアルしました。

障害のある人が自分の得意なことを生かして働き、興味や関心のあることを学び、それを人に発信、共有することができる場となっています。また、「生きることは学ぶこと」をテーマに、障害のある人をはじめ、地域の人とともに学ぶ「コミュニティ・カレッジ」を運営しています。

その他にも、創作活動、新聞ワークショップなどから、自分で選択したプログラムに取り組んでおり、それはライフワークとなり、自立支援にもつながっています。さらに、人と人をつなぐプロジェクトである「プライベート美術館」に代表されるように、障害のある人と、地域、企業、社会をつなぐ多くの活動も行っています。

写真１　アートセンターHANAギャラリー

写真２　ダンスプログラム

■ 活動の経緯・体制

興味や関心に応じて障害のある人が学び、社会との接点をつくるためにはじまった活動は、豊かな暮らしや健康について地域の人とともに考える活動へと発展しました。スタッフが障害のあるメンバーのプログラムを企画・運営し、ケアサポーターがメンバーの活動に必要なケアや健康管理などの中心を担っています。

■ 活動の効果・普及状況

創出した作品は、県内外の美術館や大学、企業での展示や、国内外での公演が行われています。また、メンバーの作品が企業商品のデザインに起用されたり、作品発注を受けたりするなど、社会的自立の手段としても成り立っています。このように、障害のある人と、地域、企業、社会をつなぐ多くの活動を行っています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

たんぽぽの家
https://tanpoponoye.org/

１点１点がつながる～心の触れあいを大切に～

■ 活動する地域

奈良県橿原市

■ 団体名

奈良県点訳グループ　青垣会

■ 基礎データ

継続年数	５８年間
活動分野	情報保障、学習
主な対象	視覚障害
主な連携先	行政（保健・福祉部局）、特別支援学校等
団体の規模等	会員101名

活動の概要

長年にわたって活動する点訳ボランティア団体。文学や歴史などの多様なジャンルのほか、年齢層に応じた雑誌や県内の伝統行事など地元奈良の情報を紹介するオリジナル点字カレンダーの製作も行っている。また教科書や大学受験参考書の点訳等多様化する要望にも対応し、視覚障害者の学びを支援している。

■ 活動の内容

文学、歴史など多様なジャンルの出版物の点訳のほか、若い男性用情報誌「ヤング青垣」や熟年層を対象とした「月刊青垣」等、年齢層に応じたオリジナル点字月刊雑誌を発行したり、点字を覚え始めた人が簡単に使えて、生活の実感を感じてもらおうと点字を中心にしたカレンダー「大和のカレンダー」も手がけています。鞄に入りやすいよう、サイズにも工夫し、県内の伝統行事や大和の伝統野菜等の情報を取りいれています。教科書や大学受験参考書、ラジオ、テレビ講座等のテキスト等の点訳等、多様化する要望にも対応しています。これらの点訳製作とともに、県内の小中学校での点字指導やイベントでの点字体験教室等を通して、学校や地域の方への視覚障害者理解を促進するとともに、点訳ボランティアの養成講座への講師派遣等、人材育成にも力を注いでいます。

また、県内盲学校の児童・生徒に毎年点字絵本を贈る等、特別支援学校との交流活動も続けています。

写真１　点訳校正勉強会での様子

写真２　校正作業の様子

■ 活動の経緯・体制

１冊でも多く良い点訳本を視覚障害者に届けたいとの思いから、指導者もいない当時、独学のボランティア数名で点訳活動を始めました。現在は会員101名となり、新人会員へは研修会や実習により会員同士で活動をサポート、また関係団体主催の講習会に参加し、知識を取得しながら、より読みやすい点訳本を目指しています。

■ 活動の効果・普及状況

青垣会で製作された図書は、点字本としての貸出し、もしくは点字データで視覚障害者等が入手することができ、ソフトや機器を利用し、より効率的に情報の利活用が可能です。また、大学受験の参考書など視覚障害者の個人的な要望にもきめ細やかに対応するなど、視覚障害者が情報や知識を幅広く習得する一助となっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

「学び合う　そして　創り合う」

■ 活動する地域

和歌山県紀の川市

■ 団体名

社会福祉法人　一麦会

■ 基礎データ

継続年数	３年間
活動分野	学習、スポーツ等
主な対象	障害者の生涯学習支援活動
主な連携先	紀の川市
団体の規模等	３５名

活動の概要

障害のある人が学校を卒業してからも、好きなことや得意なことを新しく見つけながら、それぞれの「ゆめ」や「やりたいこと」を実現できるよう「学び合い」そして「創り合う」をテーマに、さまざま障害のある当事者が自分の人生の主人公になるよう活動をしています。

■ 活動の内容

障害のある人が地域で安心して暮らし、文化的でより豊かな人生を送るために、地域資源を活用しながら「生きる力・活きる力」を協働で育むことを目指しています。

仕事が終わった後に仲間たちとゆっくり過ごせる『夕刻のたまり場』や、「こんなことをしたい」という願いや希望をもとに企画実施する『やりたいこと講座』を中心に、参加者や講師、ボランティアスタッフ等がともに取り組んでいます。

『夕刻のたまり場』は、毎週水曜日の夕方に開所し、3年間で1,533名の参加者（平均15名）を、延べ187名のボランティアが地域からサポートしてくれました。ここで仲間の友情が生まれ、悩みの共有ができる場になっています。また、『やりたいこと講座』では、それぞれの夢ややりたいことを実現することで、一人ひとりの自信に繋がり、さらなる夢が膨らんできています。これからも地域と連携し、みんなで一緒に障害のある人の生涯学習を広げ、深めていきたいです。

写真２　　夕刻のたまり場の様子

写真１　　講座で制作した横断幕と一緒に

■ 活動の経緯・体制

当法人では、これまでにも独自で生涯学習や余暇活動に取り組んできましたが、2018年に当センターを立ち上げて以来、障害のある人の生涯学習に特化した活動を行なっています。コーディネーターを2名配置し、連携協議会委員は障害当事者・行政・障害者の生涯学習団体・大学・医療関係者の17名で構成しています。

■ 活動の効果・普及状況

3年間で文化・芸術・音楽・健康・暮らしなど127講座を実施。延べ2,231名、実人数348名が参加し、願いに応えてくれた講師は65名になります。また、普及のために報告書と「障害者の生涯学習取扱説明書」を作成し情報発信(新聞・行政の広報紙・各種機関誌・ラジオ等）を行っています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

■URL http://yume-yaritaikoto.jpn.org

ICT活用で視覚障害者に情報保障を！

■ 活動する地域

岡山県岡山市

■ 団体名

ゆうあいネットPCVOL

■ 基礎データ

継続年数	１８年間
活動分野	情報保障
主な対象	視覚障害
主な連携先	岡山県視覚障害者センター
団体の規模等	会員１５名

活動の概要

視覚障害者を対象にＩＣＴ活用を支援するボランティア活動を行っている。毎月開催の講習会やメーリングリストでパソコン等のＩＣＴ機器の活用方法やインターネットを利用した読書、音楽を楽しむ方法等について、パソコン初心者をサポートしている。県内の多くの視覚障害者にとって、なくてはならないボランティア団体となっている。

■ 活動の内容

岡山県視覚障害者センターで毎月開催している例会およびメーリングリストにおいて、視覚障害者のICT活用についてサポートしています。メーリングリスト会員は県内の視覚障害者や晴眼者を中心に約100名が登録しており、パソコンやスマホの使い方についての質問や回答が活発にメールで投稿されています。

例会では視覚障害者のサポートだけでなく、パソコンボランティアとしての知識と技能を向上させるために勉強会も行っています。スクリーンリーダーの読み上げ方やキーボードによるパソコン操作について、楽しく和やかな雰囲気の中で研鑽を深めています。

また、岡山県内各地に出向いてパソコン体験会を開催しています。初めてパソコンに触れる視覚障害者に、インターネットで新聞を読んだり読書をしたりすることを体験してもらい、県内の視覚障害者のパソコン利用を支援する活動を地道に行っています。

写真１　パソコンボランティアの勉強会

写真２　視覚障害者対象のパソコン体験会

■ 活動の経緯・体制

平成13～14年度に視覚障害者対象ＩＴ講習会が岡山盲学校で開かれましたが、講習だけでは十分にパソコンの技能を身につけることは困難でした。そこで平成15年度に岡山盲学校の教員を中心として当会を設立し、受講者のアフターケアを始めました。現在15名の会員で視覚障害者のICT活用のサポート活動をしています。

■ 活動の効果・普及状況

岡山県内の視覚障害者のパソコン利用者を増やすことができ、また県内各地で例会を開催することにより、県内全域での視覚障害者のパソコン利用のサポート体制を確立することができました。また、県内で不足していた視覚障害者を支援するパソコンボランティアも増やすことができました。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

ホームページはこちら
https://www.normanet.ne.jp/~pcvol/

ローカル情報から医学書まで~声の友の活動~

■ 活動する地域

広島県三原市

■ 団体名

朗読録音グループ「声の友」

■ 基礎データ

継続年数	４１年間
活動分野	情報保障、学習
主な対象	視覚障害、肢体不自由
主な連携先	小学校、中学校、社会福祉法人等
団体の規模等	５６名

活動の概要

視覚障害者との連携を深めるともに、福祉の充実に協力することを目的に、朗読や音訳等の活動を行っている。長年にわたり、市広報や市議会だより、障害者プラン等の音訳を行うほか、障害者支援施設等を毎月訪問し、資格取得のための医学専門書なども含めた要望のあった書籍を朗読・音訳している。

■ 活動の内容

視覚障害者との連携を深めるとともに、福祉の充実に協力することを目的に、朗読や音訳等の活動を行っています。市広報、市議会だより、障害者プラン等の音訳を行っています。市広報は、紙媒体発行日と同じタイミングで、利用者に届けています。

盲養護老人ホームや障害者支援施設を毎月訪問し、視覚障害者や高齢者から要望のあった書籍等を朗読や音訳しています。

また、視覚障害者福祉協会主催「視覚障害者の料理教室」、社会福祉協議会主催「朗読ボランティア養成講座」、三原市内の小中学校での福祉体験学習など、市内の関係団体と連携して活動を行っています。

こうした活動状況は、毎月、市の市民協働サイトやフェイスブックで発信しています。

写真１　　声の友会員集合写真

■ 活動の経緯・体制

三原市社会福祉協議会主催「朗読ボランティア養成講座」修了者有志により結成し、４０年以上活動を続けています。会員は３０代から８０代と幅広い年齢層で構成されており、総務部・収録部・朗読奉仕部・研修企画部に分かれて、定期的に活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

依頼があれば、短期間で作成して届けるなど、利用者の要望に応じて支援をしています。はり・灸の資格取得のための医学専門書など、学習を支援する朗読にも取り組んでいます。

作成した市広報等の音声ＣＤは、三原市中央図書館に届けたり、ホームページにアップしています。

写真２　　市議会だよりの収録中

■ その他（団体紹介や参考情報等）

http://mihara.genki365.net/gnkm05/mypage/index.php?gid=G0000099

重度・重複障害児が地域で参加可能な「スポーツの場」を作りたい！

■ 活動する地域

広島県坂町

■ 団体名

HBG重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」

■ 基礎データ

継続年数	１４年間
活動分野	スポーツ
主な対象	重度・重複障害児
主な連携先	大学、企業等
団体の規模等	350名（うち子供83名、ボランティア112名、大学生155名）

活動の概要

身体及び知的にも最重度の障害がある子供を対象とした「アダプテッド・スポーツ」を毎月１回実施している。学校や施設、病院以外で運動・スポーツに親しむ貴重な場となっている。地域の大学の協力もあり、各分野の専門的知見のある質の高いボランティア支援者が活動を支えている。独自に開発したスポーツ種目は他県にも広がっている。

■ 活動の内容

子供の障害の状態等にあわせて、運動・スポーツのルール、用具、指導法等を独自に考案・工夫し、重度障害があっても参加可能とした「アダプテッド・スポーツ」を毎月1回実施しています。

参加している子供は、重度の知的障害に加え、中には吸引や注入等の医療的ケアを必要としている子供もいます。脳性まひを原因とする重い身体障害があり、体力や筋力低下等により十分な運動量の確保が難しいといった課題もあります。

子供たちは、日常生活の常態であるベッド・車椅子等から降りて、必要な支援を受けた姿勢保持を基本とした運動・スポーツを楽しんでいます。主な活動種目は、スクーターボード（写真１）、スローベンチ椅子ラジオ体操（写真２）、トランポリン、マット・ローラー、風船リレー、シッティングふわふわ風船バレーボール、プール、スタンドアップパドルボード等です。通常通う学校や施設・病院とは趣が違う場所で、運動・スポーツができる数少ない貴重な場となっています。

写真１　手作りの台車に乗って楽しむ走行運動

写真２　特製のベンチ椅子に座ったラジオ体操

■ 活動の経緯・体制

障害のある子供が、家庭や学校・病院以外で「楽しめる場所づくりをしたい！」「参加できるスポーツ教室を定着させたい！」という思いから、2007年4月に活動を開始し、今年で15年目を迎えました。

特別支援学校教諭を中心に、医療・福祉職など多職種の方や、大学生が支援者として参加しています。

■ 活動の効果・普及状況

活動の際には、子供が車椅子等から降りていろいろな姿勢で参加可能となるように用具を自作したり、独自に指導法を工夫したりしています。保護者からは、「子供の表情が嬉しそう」「安全に思いっきり体を動かせる」「他にはないダイナミックな活動ができる」などの感想が寄せられており、参加者も増加しています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

フェイスブックはこちら
https://www.facebook.com/hanamarukids/

点訳と音訳に興味のある方、一緒に学んでみませんか？

■ 活動する地域

山口県下関市

■ 団体名

山口県点訳音訳ボランティア連絡会

■ 基礎データ

継続年数	５３年
活動分野	情報保障
主な対象	視覚障害
主な連携先	社会福祉関係団体、図書館等
団体の規模等	会員350名

活動の概要

５０年以上にわたり、視覚障害者の情報保障に関わる活動を行っています。視覚障害特別支援学校や図書館と連携しながら、視覚障害者への学習保障や情報保障についての取組を続けています。

■ 活動の内容

点訳は、活字を点字に訳すこと、音訳は、活字を音声に訳すことを言います。本団体は、県内点訳・音訳ボランティア団体が加盟する全県的な団体です。

事業内容としては点訳・音訳の研修に関すること、県内の社会福祉関係団体及び県内の図書館等の連絡調整に関すること、点訳図書の選択、研究や調査に関することに取り組んでいます。また、県内における点訳・音訳、その他の視覚障害者への福利厚生事業も行っています。

点訳講習会、音訳講習会を定期的に開催し、人材の育成に取り組んでいます。パソコン点訳や英語点訳にも対応しています。

県内で点訳指導員、音訳指導員の育成を行っています。全国規模の講習会にも、多数の会員が参加し、講習会を通じて意識向上や技術向上を目指しています。

行政（パンフレット等）や個人からの点訳・音訳の依頼にも対応しています。

写真２　講演会の様子（約８０人が参加）

写真１　視覚障害や点字についての講演会の様子

■ 活動の経緯・体制

初代会長が町立図書館勤務時（昭和３５年）、点字図書を初めて見て衝撃を受けたことが会の出発点になります。その後、初代会長が点字図書館で展示を学び、昭和３７年４月に「点訳麦笛の会」を発足させました。県下各地に点訳グループが誕生し、昭和４３年に「山口県点訳友の会」が発足して現在に至っています。

■ 活動の効果・普及状況

平成２３年に行われた第１１回全国障害者スポーツ大会において、県陸上競技場、スポーツセンターの案内の点字冊子と音訳ＣＤの作成をしました。平成２７年には下関南総合支援学校（旧盲学校）の110周年記念誌の点訳・音訳を行いました。現会長は、下関南総合支援学校の学校運営協議会の委員でもあります。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

もっと気楽に連絡会に依頼や相談をいただけるようにしていきたいと思います。

「さくら学級」で楽しい休日!

■ 活動する地域

徳島県徳島市

■ 団体名

さくら学級

■ 基礎データ

継続年数	２１年間
活動分野	文化芸術、スポーツ、学習
主な対象	知的障害者
主な連携先	文化芸術団体等
団体の規模等	指導者４名、学級生２３名

活動の概要

知的障害児・者を対象とした、休日の余暇活動です。教員と保護者の無償ボランティアで21年間運営しています。なかでも「阿波踊り」は生徒たちの大好きな活動であるとともに、県内外の様々なイベントで活躍することができ、生徒たちの生きがいとなっています。

■ 活動の内容

・阿波踊り

毎年お盆に徳島市演舞場で踊ることを楽しみに練習を重ねています。今年はパラリンピック聖火徳島県出立式で披露しました。国内外の多くの人と阿波踊りでつながることができています。

・水泳

障害者交流プラザのプールを利用し、初心者から上級者まで自分に合った泳ぎを楽しんでいます。健康増進にもなっています。

・劇

昔話を題材とした劇を、福祉祭り等で披露しています。発音の改善やコミュニケーション力が高まり、日常の会話にも役立っています。

・手芸

刺し子やパッチワークに取り組んでいます。

・その他に、調理、生け花、楽器演奏、英語、読み聞かせなどを、組み合わせながら実施しています。年に１回の遠足もあり、この日のためにみんな給料や小遣いを貯めています。

写真１　パラリンピック聖火徳島県出立式で阿波踊り

写真２　劇

■ 活動の経緯・体制

教え子（徳島市の小学校・中学校の特別支援学級に通う児童・生徒）の余暇活動の充実を願う担任の熱い思いから出発した活動です。指導は教員４名。開設当初は使用会場確保にも苦労したが、現在は県立障害者交流プラザを拠点に、毎週土曜日の午前中に３時間活動をしています。

■ 活動の効果・普及状況

・仲間と一緒に活動できることが、生活の中の大きな楽しみや励みになっています。また、活動を長年続けることで「できる」ことが増え、自信になっています。

・阿波踊りを通じて郷土を愛する精神が育つとともに、たくさんの人と交流をすることができています。

・保護者同士の相談や情報交換の場になっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

「生涯スポーツ」～スポーツの楽しさを伝える～

■ 活動する地域

徳島県徳島市

■ 氏名

布川　利彦

■ 基礎データ

継続年数	４３年間
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	スポーツ団体、スポーツ施設等
団体の規模等	

活動の概要

長年にわたり、障害者の水泳指導及び選手育成に尽力してきました。水泳指導資格等を取得し、全国障害者スポーツ大会水泳競技の指導に関わるだけでなく、多くの障害者に対してスポーツに親しみスポーツの楽しさを学ぶ機会を提供しています。

■ 活動の内容

昭和５３年より、全国障害者スポーツ大会に出場する県代表水泳選手の指導、審判、障害者水泳教室の開催など、４０年以上にわたり、自己研鑽を欠かすことなく、障害者スポーツの普及促進に尽力されてきました。

障害特性を理解し、豊富な経験と知識を持って、優しく、そして丁寧に根気よく技術を伝え、選手に寄り添い共に戦う。その指導方法により、全国障害者スポーツ大会でも多くの選手をメダル獲得に導くことができました。

競技力の向上だけでなく、水泳初心者の方や特別支援学校生等にも水泳を通じて「スポーツの楽しさ」を伝え、特に生徒・児童には、学校卒業後を見据えた指導により、生涯スポーツにつなげています。

８５歳となった現在もプールに出向き、情熱を持って精力的に活動を続けています。

写真１　全国障害者スポーツ大会水泳競技開始前の様子

■ 活動の経緯・体制

昭和５３年６月に水泳指導管理士の資格を取得し、全国障害者スポーツ大会徳島県選手団の水泳競技指導を始めました。昭和５５年５月には、水泳指導資格２種の資格を取得し、審判員としても活躍するとともに障害者の水泳教室の開設にも中心的な役割を担い、現在も「体が動く限りは頑張る」との思いで活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

水泳を通して、「スポーツの楽しさ」を学ぶことができる生涯学習支援を行い、スポーツによる「成功体験」を通して、障害者（児）に社会参加への自信を持たせることに成功しています。また、障害者の水泳教室、地域のスイミングクラブでの障害者水泳大会開催等、障害者が水泳に取り組む機会を創出しています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

写真２　全国障害者スポーツ大会大会終了時の様子

心の交流を深めよう

■ 活動する地域

愛媛県松前町・伊予市

■ 団体名

伊予地区精神保健ボランティアグループ しおさい

■ 基礎データ

継続年数	２５年間
活動分野	社会参加促進
主な対象	精神障害者
主な連携先	松前町、伊予市　等
団体の規模等	会員数２０名

活動の概要

精神障害者を支援するボランティア団体であり、障害者支援施設や病院等で定期的な活動を行っています。また、障害者同士の交流事業として「わくわく交流会」を主催したり、バーベキュー等の交流会を開催したり、居場所づくりに関する活動を行い、地域社会との橋渡し役を担っています。

■ 活動の内容

障害のある方が地域で安心して暮らせるよう「心の交流を深めよう」を目標に活動を始めました。軽スポーツを行う「わくわく交流会」をはじめ、「ふれあいバーベキュー」や事業所との昼食会、クリスマス会等も実施しています。当事者の方も自ら実行委員に加わり、運営の一助となっており、そこからも、会員や当事者同士の交流の輪が広がっています。交流を続ける中で見える当事者の笑顔や明るい声は会員にとって励みになり、やりがいを感じています。

また、精神保健に関する研修会に参加したり、地域のバザー等にも参加し地域住民への啓発活動も行っています。

基本は良き隣人としてふれあうことで、障害への理解を深めることが一番のボランティアであると思います。これからも良き隣人として寄り添い、地域との橋渡し役になれたらと考えています。関係機関と連携を密にし、会員一丸となって活動を進めていきます。

写真１　「わくわく交流会」の様子

写真２　「ふれあいバーベキュー」の様子

■ 活動の経緯・体制

1996年に伊予市・旧双海町・松前町の社会福祉協議会が合同で開催した「第1回精神保健ボランティア教室」の修了生によって結成しました。心の病について理解を深めること、精神障害者の社会参加を進めること、住民の心の健康づくりを進めることを目的に活動を始め、現在もさまざまな活動に取り組んでいます。

■ 活動の効果・普及状況

これらの活動により、当事者同士の交流の輪が広がりをみせており、支援する他市町の各関係団体や事業所等とのつながりも生まれています。また、地域の行事に参加することで住民の障害への理解も深まっています。障害があっても地域で支え合えるやさしいまちづくりの一翼を担っています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

音訳を通して、心の交流を広めよう！

■ 活動する地域

愛媛県松前町

■ 団体名

音訳ボランティア　もみの木

■ 基礎データ

継続年数	１０年間
活動分野	情報保障
主な対象	視覚障害
主な連携先	松前町　等
団体の規模等	７名

活動の概要

視覚障害者や高齢者への情報提供のために、月に１回集まり、町内の各種情報誌（広報、社協だより等）や書籍等の音訳を行っています。音訳テープを届ける際は、些細な会話から、意見や希望を聞き取るようにしており、当事者とボランティアの交流と相互理解の機会となっています。

■ 活動の内容

視覚障害者や目の見えにくい高齢者などへの情報を提供するため、月に1回集まり町内の各種情報誌（広報まさき、社協だより等）を音訳化しテープに吹き込んでいます。活動開始1年間は、録音の操作に慣れず、試行錯誤の毎日でした。最初は、音訳テープができあがるのに1週間以上かかっていましたが、みんなで意見を出し合い、協力した結果、録音量が増えたにもかかわらず、3日以内には届けられるようになりました。録音前には、読み合わせを実施し、読む速さや修正箇所を確認し、より分かりやすく正確に情報を伝えることを心掛けています。テープを届けると、「毎日楽しみにしています。」「松前町の出来事や催しが良く分かってうれしい。」「何度も繰り返して聞いています。」という声が聞かれます。暑い日も寒い日も年中枯れない芯の強い「もみの木」のように活動を継続し、これからも多くの人に声を届けていきたいです。テープを心待ちにしている利用者さんの笑顔が叶えられるように。

写真１　　テープを渡している様子

写真２　　録音の様子

■ 活動の経緯・体制

当時、町内に視覚障害者を支援する活動がない中、「視覚障害者の方を支援したい」との思いから、他市町の活動を学び勉強を重ね、2011年3月1日に発足しました。6名体制でボランティア団体を発足し、定期的に社協だよりにてメンバーの募集を行い、現在7名で活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

町内情報の音訳化によって、視覚障害者及び高齢者が生活に必要な情報を得ることができ、豊かな生活を送ることにつながっています。また、音訳テープの希望者を定期的に募集するとともに、テープをお届けする際等、意見や希望も取り入れるように実施し、視覚障害者の楽しみの一つとしても定着しています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

『キャンバス』は笑顔いっぱい

■ 活動する地域

福岡県那珂川市

■ 団体名

キャンバス

■ 基礎データ

継続年数	１０年間
活動分野	スポーツ、文化芸術等
主な対象	すべて
主な連携先	社会福祉法人、ＮＰＯ法人、社会教育関係団体
団体の規模等	スタッフ９名

活動の概要

『キャンバス』（画布）には夢や思いをみんなで描いていこうという意味が込められています。自宅と学校、自宅と職場の往復だけの生活になりがちな高校生以上の障がい児・者を対象として、余暇支援の活動を行なっています。個々の能力に応じた多様な活動を企画し、地域での交流の場を提供しています。

■ 活動の内容

余暇支援の活動として色々な形をとっています。

★仕事や学校帰りに立ち寄りほっとできる居場所作り（週１回）
- 「おしゃべり広場」

★イベント的な様々な活動(月１回程度)
- バスハイク・みかん狩り・調理・クラフト
- 芋植え＆芋掘り・ウォークラリー

★ボランティア活動（年数回）
- 環境ボランティア(ゴミ拾い、花植え)
- まつりの手伝い

★スポーツ（年数回）
- 福岡県障がい者スポーツ大会出場
- フライングディスクの練習
- ふれあいスポーツ企画運営

★クラブ的活動(月１～２回)
- 走り方教室　・ダンス教室
- クラフト手芸教室

スポーツでは平成29年障がい者スポーツ全国大会にフライングディスク部門で1名出場。

写真１　楽しみにしている「フライングディスク」

写真２　みんなで祝った１０周年！

■ 活動の経緯・体制

地域の障がい児と関わってきた代表は「この子達、高校生になったら地域との関わりが減ってしまう。」という思いを抱いていました。その思いに賛同した同志でボランティア団体を設立。スタッフの多くは様々な立場で障がい児と関わってきた人ですが、対象者と出会って仲間になってくれた人もいます。

■ 活動の効果・普及状況

１人の対象者の参加から始まり、今では２５人近い参加数になり、楽しく活動しています。学校や仕事で頑張っている日々の気分転換になっているようです。様々な活動の経験を通し、地域での交流や仲間づくりなど社会への広がりと自主性が備わり、余暇の過ごし方も上手になっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

手話は言語！！～バリアを理解し、共に学ぼう～

■ 活動する地域

福岡県遠賀町

■ 団体名

遠賀手話の会

■ 基礎データ

継続年数	３３年間
活動分野	学習・情報保障
主な対象	聴覚障害
主な連携先	社会福祉法人・行政
団体の規模等	会員１８名

活動の概要

聴覚障害者の言語である「手話」を学び、地域のイベント出演や手話通訳の活動、聴覚障害者について正しい理解を広めるための啓発活動を行っている。

３３年にわたり、聴覚障害者の方々と共に学び、共に活動することを継続して行っている。

■ 活動の内容

聴覚障害者の方々と交流をしながら、聴覚障害者の言語である「手話」を学び、本だけでは得られない手話の魅力を学び、情報交換をしています。また、情報保障が正しくできるように、通訳者として学び続けています。

さらに、聴覚障害者のバリアを知り、Net119やNet110、コロナ禍でも遠隔で手話ができることなどの情報等々を共に学んでいます。

「遠賀町健康・福祉まつり」に毎回参加し、手話歌を紹介したり、子どもたちに簡単な手話を教えたりしながら聴覚障害について正しい理解を広めるための啓発活動を行っています。また、講演会での手話通訳も行っています。

平成２９年には、３０周年記念集会を開きました。大阪よりろう者の落語家を招き、たくさんの聴覚障害者や手話の会に参加してもらいました。

写真１　福祉まつりでの手話パフォーマンス

■ 活動の経緯・体制

昭和５９年度に遠賀町ボランティア講習会の一環として、手話の初級講座が開催された後、受講者が集い「遠賀手話教室」が昭和６０年度に発足しました。その後、昭和６２年１２月、「遠賀手話の会」として再結成し現在に至っています。筑豊手話の会や福岡県手話の会連合会の会員となっています。

■ 活動の効果・普及状況

同好会とは違い、全国的なろうあ運動や交流会にも参加しています。学んだ情報は技術だけでなく、聴覚障害者を正しく理解するための学習として、例会でも取り入れています。会の活動が聴覚障害者への情報保障でもあり、手話を知ってもらう機会にもなっています。

写真２　３０周年記念集会の様子

■ その他（団体紹介や参考情報等）

No Charity,but a Chance!～保護より機会を～

■ 活動する地域

大分県別府市

■ 団体名

社会福祉法人　太陽の家

■ 基礎データ

継続年数	５５年間
活動分野	学習、スポーツ、芸術
主な対象	すべて
主な連携先	小中学校、特別支援学校、企業等
団体の規模等	職員300名、利用者150名

活動の概要

1965年の開所当初から障害者スポーツを推奨しています。現在はサンスポーツセンターを運営し、障害の有無に関わらず参加者の健康維持と社会参加促進を目的とした活動の場を提供しています。車椅子バスケットボールなど１０のクラブ活動と多くの施設見学者の受入れや体験を通じて障害者スポーツの理解と普及に努めています。

■ 活動の内容

1965年開所当初からリハビリテーションの一環として障害者スポーツを推奨してきました。現在は、サンスポーツセンター（体育館、トレーニング室）を運営し、障害の有無に関わらず参加者の健康維持と社会参加促進を目的とした活動の場を提供しています。車椅子バスケットボール（２つ）、サッカー、テニス、卓球バレー、フライングディスク、卓球、ボッチャ、バトミントン、アンサンブルの１０のクラブが週に2度程度活動しています。また、毎年約5000名の見学者を受け入れ、障害者の生活や就労場面の見学、交流を通して、共生社会の実現に向けた教育活動にも取り組んでいます。

2020年には障害者スポーツの体験等を通して共生社会の実現へ情報発信を続けていくための拠点「太陽ミュージアム」を開所し、2021年度から別府市内の小学校と連携して「インクルーシブ教育システム」の構築に向けた取り組みを実施していく計画です。

写真２　ツインバスケットボールの活動の様子

写真１　卓球バレーの活動の様子

■ 活動の経緯・体制

「日本における障害者スポーツの父」と称される故中村裕博士の提唱の下、障害者の社会復帰への訓練の一環としてスポーツ活動に取り組んできました。近年は障害者自身が中心となりクラブ活動を継続し、後継育成と仲間づくりに取り組んでいます。専門部署（健康支援課）を備え、障害者へのスポーツ指導を実施しています。

■ 活動の効果・普及状況

障害者にとっては残存機能の強化と健康維持を図るとともに、社会で生きていくための自信や活力を得て交友関係を広げることができる機会となっています。大分県の障害者スポーツ活動の拠点として毎年5000名以上の見学者を受入れ、クラブ活動には健常者と障害者合わせて120名が参加しています（令和3年10月現在）。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

「太陽ミュージアム」再開します！（事前予約限定）
ホームページは　http://www.taiyonoie.or.jp

楽しみにしている人のために、点字新聞を届けたい。

■ 活動する地域

宮崎県えびの市

■ 団体名

やまびこ

■ 基礎データ

継続年数	３１年間
活動分野	情報保障、学習
主な対象	視覚障害者
主な連携先	えびの市社会福祉協議会
団体の規模等	４名

活動の概要

ボランティアグループ「やまびこ」は、毎月点字新聞を作成し、視覚障害者へ届けている。点字新聞の内容は多岐にわたり、市の広報やニュース、趣味に関するような内容になっており、情報を得る大切な手段の１つとなっている。また、市内の小中学校で点字教室を開催し、障害者を支援する人材育成に貢献している。

■ 活動の内容

宮崎県えびの市の女性４名で活動されているボランティアグループ「やまびこ」は、毎月、点字新聞を製作し、市内外の視覚障害者の方々に届ける活動を続けています。

Ｂ５判で作成される点字新聞の内容は多岐にわたり、市広報をはじめ、一般のニュースや趣味につながるような詩、俳句、料理レシピ等、利用者が喜ぶような内容をメンバーで検討し、毎月一点一点真心を込めて手作業で点字新聞を作成しています。

今では機械化が進み、タイプライターや点字プリンターなどが主流になる中、「やまびこ」は手打ちをモットーに、真心を込めて１枚１枚作成されています。

発行号数は令和３年６月号で３５５号を数えます。大木場会長も「まずは４００号まで続けることを目標にがんばっていきたいです。」と意気込んでいます。

写真１　ボランティアグループ「やまびこ」の皆さん

写真２　市内の中学校で行われた点字教室の様子

■ 活動の経緯・体制

同会は、生涯学習講座の点字講座等で学んだメンバーが、「学んだことを忘れないよう点字を使う機会を大切にしたい。」という思いと、「視覚障害者との交流を図りたい。」という思いから１９９０年に発足し、３０年以上活動を継続しています。現在は、「楽しみにしている人がいる限り続けたい。」と４人で活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

読者からは、「幅広い内容が記載されており、毎月届くことが楽しみ。本当に感謝している。」との声が寄せられています。また、活動は点訳だけでなく、人権教育の一環として、市内の小中学校で点字教室を開催しています。講師を務めるなど、障害者への理解を深めるとともに、障害者を支援する人材育成にも貢献しています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

なし

「翼」は出会いの場～仲間と一緒に楽しく、元気に！～

■ 活動する地域

宮城県仙台市

■ 団体名

本人・若年認知症のつどい「翼」

■ 基礎データ

継続年数	１４年間
活動分野	学習、文化芸術、スポーツ等
主な対象	すべて
主な連携先	おれんじドア、地域包括支援センター等
団体の規模等	世話人６人、参加者約４０人程度

活動の概要

認知症と診断された本人と家族の出会いと話合いの場を作っている。宮城県及び仙台市全域から参加がある。各種サービスなど必要な情報を提供し、本人の活動の機会や家族の負担軽減が図れるように、また、合唱や講演などの発信により、本人が自信を取り戻し地域社会の一員として暮らしていることを実感していただくよう取り組んでいる。

■ 活動の内容

認知症本人とその家族、支援者が集い、毎月第1、第3木曜日に市民センターを会場として10時30分から１５時まで活動をしています。活動の内容は①本人の思いを語る場：本人ミーテイング「まったりカフェ」②家族相談会③合唱④スポーツ・体操などを行っています。日頃の合唱の練習成果を宮城県や、仙台市のイベント、施設訪問、世界アルツハイマーデー記念講演会等で発表、2017年にはADI国際会議のオープニングで歌うことが出来ました。また、「翼」に参加されている認知症本人や家族が認知症啓発活動としてサポーター養成講座や各市町村介護講座で体験談の講演を行っています。他関連団体や地域包括支援センターと連携し、認知症と診断されたり、もの忘れなどで不安のある方に情報が届けられるようにしています。第2、第4木曜日の10時から12時まではコミュニティセンターでスポーツカフェ「ほっと」を開催し、スポーツの機会がなくなった認知症本人が楽しむ場を作っています。

写真２　スポーツカフェ「ほっと」バレーボール

写真１　　2017ADIオープニングにて合唱発表

■ 活動の経緯・体制

2006年、2人の若年認知症の方とその家族との出会いから「翼」の活動を開始。診断され絶望の中、孤立しないで地域・社会で生きていってほしいと支援活動を始めました。現在は若年性の方だけではなく高齢者も仲間として参加されています。当初は2人の支援者から今は認知症の人と家族の会世話人の6名が運営に関わっています。

■ 活動の効果・普及状況

認知症本人、家族が「翼」で出会い、話し合うことで徐々に認知症を受け入れ前向きになっていっています。合唱やスポーツを通じて本人も家族も同じ目的に向かって活動し、発表することで達成感を持つことが出来ていると感じます。合唱や講演で発信することで、認知症に対する社会の認識を変えてきていると思います。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部
☎022-263-5091　mail：kazokunokai04@gmail.com

半世紀近く続く音訳グループのパイオニア

■ 活動する地域

埼玉県さいたま市

■ 団体名

音訳グループ木曜会

■ 基礎データ

継続年数	４６年間
活動分野	情報保障・学習
主な対象	視覚障害者・発達障害者・身体障害者
主な連携先	さいたま市立中央図書館
団体の規模等	５７名

活動の概要

音訳グループ木曜会は、さいたま市立中央図書館を拠点として、障害や高齢などの理由で通常の読書が困難な人のために音訳をするボランティア活動を行っています。

■ 活動の内容

音訳グループ木曜会は、1975年6月浦和市（現さいたま市）立北浦和図書館で「視覚障害者のための朗読奉仕講習会」修了後、有志によって結成され、昨年45周年を迎えました。この間、昭和の時代のカセットテープから平成の時代のデジタル録音の普及にいち早く対応し、作成したＤＡＩＳＹ図書は国立国会図書館・サピエ図書館を通して、市内のみならず日本全国で広く利用されています。令和の時代、これからも音訳ボランティアの活動を続けていくため、後進を育成する「音訳ボランティア養成講座」を開講しました。また昨年度は新型コロナウイルスの影響で、直接対面する活動が制限される中、在宅を中心とした製作体制を構築することにより、例年とほぼ同数の録音資料を完成させ、利用者に提供することができました。グループの活動として、例会、勉強会（講師：ＮＨＫアナウンサー等）、音訳ボランティア養成講座を開催しています。各自音訳技術の習得に努め、後進の育成も積極的に行っています。

写真２　録音図書作成の相談の様子

写真１　例会の様子　※撮影はコロナ以前

■ 活動の経緯・体制

1975年6月、浦和市（現さいたま市）立北浦和図書館主催「視覚障害者のための朗読奉仕講習会」修了後、音訳グループを結成しました。2007年11月、さいたま市立中央図書館開館に伴い、活動拠点を中央図書館に移しました。以後現在に至るまで、精力的に活動を続けています。

■ 活動の効果・普及状況

【令和２年度活動実績】

・録音図書の作成：ＤＡＩＳＹ図書＝53タイトル
・声のお便り：毎月5日発行（通算第228号～239号）
・新聞コラム：毎週月曜日発行（天声人語・余禄）
・対面同読：利用者3名、実施回数20回、延べ実施時間38時間※新型コロナウイルスの影響で7・8月のみ実施

■ その他（団体紹介や参考情報等）

https://www.lib.city.saitama.jp/contents?3&pid=364

水の力がもたらす笑顔と感動～可能性をあきらめない～

■ 活動する地域

静岡県浜松市

■ 団体名

ぺんぎん村水泳教室

■ 基礎データ

継続年数	２９年間
活動分野	スポーツ、学習
主な対象	すべて
主な連携先	小学校、中学校、特別支援学校
団体の規模等	専任スタッフ12名、生徒120名

活動の概要

３歳から60歳代までの幅広い年齢層の方が参加しており、どんな障害があっても、楽しく水泳を学ぶことができる場、社会との繋がりの場として29年間親しまれている。開設している４つのコースのうち、選手コースからはパラリンピックのメダリストでもある鈴木孝幸選手をはじめ、多くの競泳選手を輩出している。

■ 活動の内容

ぺんぎん村水泳教室は、主に障害がある子供たちのための水泳教室です。浜松市内３カ所の市民プールで活動し、水泳の技術を教えるだけではなく、社会のルールなども身に付けられるよう活動しています。市民プールを活動場所としているのは、地域住民に障害がある子供たちの頑張る姿や、スタッフが一人ひとりの障害に向き合う姿を見てもらうことで、障害についての理解を深めてもらうためです。また、子供たちに社会の一員であること、地域の一員であることを認識させるためでもあります。

また、水泳指導だけでなくイルカとのふれあい体験ツアーをはじめ、様々なイベントを開催し、健常者・障害者・大人・子供の区別関係なく、様々な体験を通して楽しく学べる機会を提供しています。2019年５月13日には「LEN＆ぺんぎん村マイベスト達成応援プログラム」がbeyond2020マイベストプログラムに認定されました。

写真１　一人ひとりに寄り添った指導

写真２　選手コースの活躍

■ 活動の経緯・体制

障害があるという理由で、スイミングクラブに受け入れてもらえなかったり、やりたくてもあきらめたりした子供やその保護者からの指導希望があり、そのニーズに応えるため、障害者水泳教室「ぺんぎん村水泳教室」を開設しました。個々の障害の状況に応じてカウンセリングをしながらプログラムを組み立てています。

■ 活動の効果・普及状況

パラリンピックのメダリスト鈴木孝幸選手をはじめ、多くの競泳選手を輩出しています。「できない」とあきらめていたことが「できる」に変わる経験を通して、何事も「やってみよう」という意欲や「あきらめない」気持ちを育んでいます。また、子供たちだけでなく、成人の指導にも力を入れています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

https://penguinmura.com/
https://mfc-len.jp/

出会いと交流～視覚障害者の福祉と文化向上のために～

■ 活動する地域

主に大阪市内

■ 団体名

一般社団法人
大阪市視覚障害者福祉協会

■ 基礎データ

継続年数	４０年間
活動分野	情報保障・学習等
主な対象	視覚障害者
主な連携先	特別支援校、日本視覚障害者団体連合、日視連近畿ブロック協議会等
団体の規模等	代表理事・理事・事務局等運営者23名、会員379名

活動の概要

視覚障害者の社会参加や人間関係づくりを促進し、変化の激しい社会で生涯にわたって学ぶ機会を提供しています。成人学校では、寄せ植え作りや音楽療法で、身体感覚を使った学習活動を行っています。国語教室では、普段の生活場面を取材し構成した内容で学習を進めており、受講者に好評を得ています。

■ 活動の内容

視覚障害者の福祉と文化・教養向上のため、さまざまな事業に取り組んでいます。視覚障害者を対象とした、生涯学習事業、文化・体育事業の他、ガイドヘルパー派遣事業や各世代向けの事業、点字の普及にも努めています。職業支援の一環として、三療業（あんま、針、灸）に従事する方向けに三療講習や健康保険取り扱いの事務代行も実施しています。

これらの事業の中で、とりわけ生涯学習事業においては、生涯にわたって学ぶ機会を提供するとともに、社会参加や人間関係づくりの面でも役立つ学習内容を設定しています。成人学校では、積極的かつ心豊かに社会参加ができるよう、多方面との繋がりや体験を重視し、必要な知識や技術を習得することを目指しています。また、国語教室では、音声パソコンの普及に伴い、必要となる普通文字によるコミュニケーションの促進、漢字の意味や成り立ち、同音異義語、正しい日本語の使い方について学んでいます。

写真２　国語教室の様子

写真１　成人学校の様子

■ 活動の経緯・体制

昭和32年に大阪市盲人福祉協会として発足し、平成11年に大阪市視覚障害者福祉協会に名称を変更しました。昭和56年に成人学校、昭和57年に女性教室、平成4年に国語教室を開設、その後成人学校と国語教室に改編し現在に至っています。体制は、代表理事、理事、監事の他、事務局長と事務局員6名が運営にあたっています。

■ 活動の効果・普及状況

成人学校(年7回。講義形式4回＋体験学習3回。参加者40名～100名)のうち、音楽療法等の身体感覚を使った学習活動や、国語教室(年6回、参加者各回15名程度)での、コミュニケーション手段である言語を習得するために普段の生活場面から取材し構成した学習内容は、積極的な社会参加への姿勢をはぐくむ効果を生んでいます。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

月刊機関誌「大視協ジャーナル」を発行しています。
ホームページはこちらhttp://www.daishikyo.org/

～いつまでも学びの場を！旭出あおば会～

■ 活動する地域

東京都練馬区

■ 団体名

同窓会旭出あおば会

■ 基礎データ

継続年数	２１年間
活動分野	学習、スポーツ等
主な対象	知的障害
主な連携先	特別支援学校
団体の規模等	指導者２０名、会員200名

活動の概要

旭出学園（特別支援学校）の卒業生が、同窓会活動として月に一度集まり、保護者、ボランティア、教職員とともに、スポーツ、音楽、美術、勉強会などの諸活動を楽しんでいます。社会に出ても、安心して学ぶことができる「居場所」を目指します。

■ 活動の内容

旭出学園（特別支援学校）の卒業生を対象に、あおば会ニュースの発行、余暇活動、就労定着支援、生活相談を行っています。中心となる余暇活動では、月に1回学校に会員が集まり、保護者、ボランティア、教職員とともに、スポーツや音楽、美術など、自分で選択したグループに分かれて、仲間と共に活動を楽しんでいます。スポーツクラブはキックベースボール、バスケットボール、ボッチャなどを行い、ソフトボールは他校での交流試合も年に1度開催しています。音楽クラブでは歌唱やダンスを楽しんでいます。美術クラブでは絵画や工作などの作品を完成させています。時季により、クリスマス会、お花見会なども催します。また、企業就労した卒業生への支援として「フォローアップの会」を年に２回行い、テーマを決め勉強会をしたり、職場での仕事内容や悩みなどを話し合い、保護者や教職員と情報を共有できる場になっています。

写真１　スポーツクラブ、バスケットゲームの様子

写真２　音楽クラブ（ｺﾛﾅ感染予防の中で）

■ 活動の経緯・体制

1983年、企業就労した卒業生を支援する「あおば会」が発足。2000年に卒業生全員を対象とした「同窓会旭出あおば会」と名称を変え、約150名が会員となりました。2008年には月1回の余暇活動が実現し、保護者、学生ボラティア、教職員が現在の活動を支援しています。活動内容については５月に総会を開催し決めています。

■ 活動の効果・普及状況

卒業生にとって、この同窓会活動は、家庭や職場とは別の、安心して話し合える仲間や教職員のいる「自分の居場所」「心の拠り所」となり、開催を楽しみにしています。また、保護者、教職員にとっても、卒業生との交流を通じて、多くのことを学べる機会となっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

旭出学園（特別支援学校）のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞで「旭出あおば会」を紹介しています。http://www.asahide.ac.jp/

ひとりじゃないよ、みんな集まれ！

■ 活動する地域

富山県富山市

■ 団体名

富山市手をつなぐ育成会
「みんなの青年の会」

■ 基礎データ

継続年数	３１年間
活動分野	学習・スポーツ等
主な対象	知的障害
主な連携先	ボランティア団体・行政・短期大学
団体の規模等	600名程度

活動の概要

富山市内の知的障害者を対象に、月に1回程度、四季折々の行事や、障害当事者による企画での学習活動等を行っています。学校卒業後も家庭内に留まらず、地域社会で孤独感を感じることのないよう、仲間づくりや余暇支援、社会性を育む学びの場として31年にわたり継続して活動しています。

■ 活動の内容

学校卒業後の富山市内の知的障害者を対象に、月に1回程度、四季折々の行事を開催しています。

障害が軽い人のＡグループ、重度の人のＢグループに分けての活動や、両グループ合同での活動があり、バーベキュー大会、一泊研修旅行、クリスマス会、ボウリング大会、料理教室、アレンジフラワー教室等の様々な活動を通し、仲間同士の交流を深めています。

Ａグループでは、自分たちの話し合いで内容を企画し、旅行や将来を見据えた学習会等を行っています。Ｂグループの活動は、保護者をはじめ、多くのボランティアの協力によって運営されており、障害理解啓発の場にもなっています。

年代や就労先、通所先の枠を超え、学校を卒業してからも学びたい、仲間と交流したいという気持ちに応え、自主性や社会性を育むことを目指し活動しています。

写真１　　Ａ・Ｂグループ合同でのウォーキング

■ 活動の経緯・体制

1990年に保護者数名により、学校卒業後も家庭内のみに留まらず、仲間同士での交流や自主的な活動ができるようにと設立されました。現在では、保護者や支援学校教員、ボランティア団体、社会人・学生ボランティアなどの協力を得るとともに、知的な障害のある人自身による企画運営もされています。

■ 活動の効果・普及状況

学校卒業後の生きがい、学び、交流の機会となり、様々な体験や学習を重ねることにより、知的な障害のある人の自立と社会参加を高めると共に、保護者・家族の交流の場にもなり、障害のある人やそのご家族の孤立防止にも貢献しています。この活動に倣い、県内の他地域にも本人活動の場が発足しています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

https://blog.canpan.info/tomi-ikusei/

写真２　　Ａグループの学習会

どんなに障害が重くても、誰もが一緒に楽しめる！ハンドサッカー！！

■ 活動する地域

東京都

■ 団体名

日本ハンドサッカー協会

■ 基礎データ

継続年数	１２年間
活動分野	スポーツ
主な対象	肢体不自由者・重度重複障害者
主な連携先	日本肢体不自由児協会
団体の規模等	役員等４０名　大会参加者130名

活動の概要

肢体不自由児者及び重度重複障害児者を対象としたハンドサッカーを全国に広げるとともに、特別支援学校卒業生の生涯スポーツの推進を目的として活動している。

ハンドサッカーは東京都の特別支援学校発祥のアダプテッドスポーツで、現在東京都内の卒業生チームは１２チームが活動しており、年に１回大会も開催している。

■ 活動の内容

ハンドサッカーは、東京都の肢体不自由特別支援学校発祥のアダプテッドスポーツ（スポーツのルールや用具を、競技者の障害の種類や程度に合わせたスポーツ）で、重度重複障害者を含め、誰もが参加できるスポーツです。肢体不自由特別支援学校在学中に、ハンドサッカーを経験した全ての児童生徒が、卒業後も継続してスポーツに親しめるようサポートしています。

卒業生大会の企画・運営のために開催される実行委員会には、各チームから複数名の特別支援学校卒業生が参加しています。会議運営や関係各所との連携のサポート等のため協会スタッフも参加し、卒業生たちの自立を促しながら、スポーツを通じた自己実現のサポートをしています。

また、長年この競技に親しんでいる障害当事者の方に全国各地で実施される講習会に同行してもらい、現地で受講者の方々と共にプレーしたり、講義をしたりして、自らの言動でこの競技の魅力を伝えてもらっています。

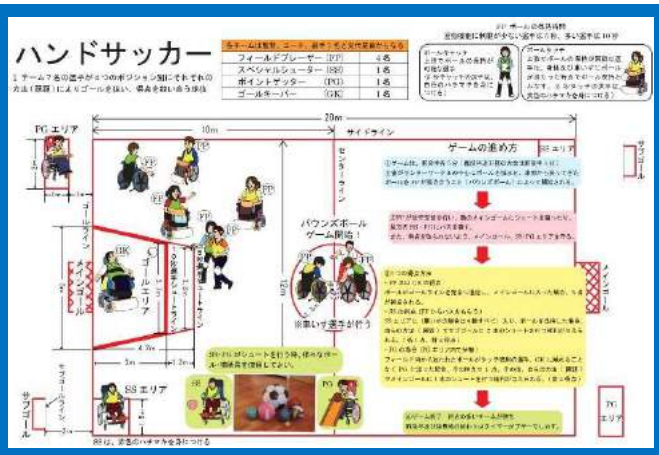


写真１　競技のルール（特別支援学校卒業生が作成）

■ 活動の経緯・体制

特別支援学校関係者と卒業生、大学関係者で理事会を構成しています。卒後のスポーツの場や機会の保障、並びにハンドサッカーの普及啓発のため、2009年に当協会が発足しました、年に１回行われる卒業生大会開催は、これまでに12回を数え、全国に向けた理解啓発活動は2014年以降、計14道府県で実施しました。

■ 活動の効果・普及状況

「障害の重い方々も共に楽しめ、輝ける」スポーツの意義を実感してくださった方々は、各地で当競技を根付かせようと尽力しています。茨城県内では肢体不自由特別支援学校3校による大会が実施されたり、島根県の学校は、修学旅行の行先を東京に変更し、訪れた東京の学校とハンドサッカーの対抗試合を実現させたりしました。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

協会ホームページhttps://handsoccer.jimdofree.com/

写真２　ハンドサッカーフェスティバル

組んだ瞬間、見える～柔道を通じて培う心と体～

■ 活動する地域

東京都文京区（講道館）

■ 団体名

特定非営利活動法人
日本視覚障害者柔道連盟

■ 基礎データ

継続年数	３５年間
活動分野	スポーツ、学習
主な対象	視覚障害
主な連携先	全国盲学校、全日本柔道連盟
団体の規模等	選手、役員等関係者 150名

活動の概要

視覚障害者が気軽に柔道を始められるように全国各地で体験会等や盲学校の先生方や町道場の指導者達に視覚障害者柔道の理解を深める講習会を開催しています。また国内の視覚障害者柔道の競技力向上を進め、パラリンピックや様々な国際大会で活躍できる選手の育成や選手や関係者のための環境整備にも注力しています。

■ 活動の内容

人が生涯にわたって学習を継続するためには丈夫な体と強い精神力が必要とされる。バリアフリー化が進む中でも街中の至る所には段差があり視覚に障害があると転倒しケガを負うリスクも大きい。当連盟では視覚障害者が転倒から体を護る「柔道の受身」の普及に励んできた。また視覚障害者柔道を理解する指導者を増やすことでより多くの方が柔道を楽しみ体を鍛える機会を作ることも大事な事業として取り組んでいる。1986年からは全日本視覚障害者柔道大会を開催し基本技術習得の後も更に柔道の技を高めたい選手達に道を拓いた。以来全日本大会は今年で36回を重ね、勝負に勝ちたいという気持ちや厳しい練習に耐えて乗り越える強い精神力を養うことが出来た多くの視覚障害者柔道家を育ててきた。また東京パラリンピック大会を契機に高まった共生社会の理念についても、視覚障害者柔道体験会を各地で開催し老若男女問わず障害について考える機会を持ってもらい、心のバリアフリー化も推進している。

写真１　大阪府八尾市での視覚障害者柔道体験会の様子

写真２　東京2020パラ大会代表チーム

■ 活動の経緯・体制

当連盟は1988年ソウルパラリンピック大会で柔道が正式種目に採用されたことを契機に1986年に設立された。当初より講道館と全日本柔道連盟の力を借りながら連盟強化委員会が中心となり選手強化に努めている。もう一つの柱の普及振興事業は連盟事務局が中心となり、全国盲学校長会や地方自治体と連携し事業を進めている。

■ 活動の効果・普及状況

ソウルパラリンピック大会以降すべてのパラリンピック大会でメダルを獲得しており、東京2020大会でも銅メダル2つという厳しい結果であったが何とかメダルは確保した。また各地の柔道連盟との連携を新たに深めて視覚障害者柔道のことをよく理解する指導者や柔道場、また連盟の活動を支援するボランティアが増えてきている。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

連盟HPはこちら　https://judob.or.jp

視覚に障害がある人もない人も、共に楽しく走りましょう

■ 活動する地域

東京都文京区ほか全国

■ 団体名

特定非営利活動法人
日本ブラインドマラソン協会

■ 基礎データ

継続年数	３７年間
活動分野	スポーツ学習
主な対象	視覚障害者及びその支援者
主な連携先	特別支援学校、スポーツ団体等
団体の規模等	会員 約450名

活動の概要

ブラインドマラソンおよびウオークの全国的な普及、発展のための事業を行い、視覚障がい者の体力向上、並びに社会参加の促進を図るとともに、全国にブラインドマラソンの理解者・協力者を増やし、もってノーマライゼーション社会の実現に資することを目的として活動しています。

■ 活動の内容

①大会開催事業
　視覚障がい者がある人もない人も、ともに楽しく競い合えるマラソン大会や駅伝などの大会を開催しています。
②研修事業
　視覚障がいがある人とそれを支えるボランティアの人たちがランニングやウォーキングを楽しむ機会を提供したり、伴走ボランティアの皆さんのための研修会を開催したりしています。
③選手強化事業
　パラリンピック等の国際大会で活躍できる選手やガイドランナーを育成するため、強化指定選手制度を設け、強化合宿や海外への派遣を行う活動を継続しており、東京2020パラリンピック競技大会では、男女マラソンで金・銅二つのメダルを獲得するなど、大きな成果を挙げています。
④普及・広報事業
　ホームページ等による情報の発信を行い、ブラインドマラソンの理解・普及に努めています。

写真１　　強化合宿でのトレーニング

写真２　神宮外苑ロードレースの参加者と伴走者

■ 活動の経緯・体制

　1983年、大阪の長居陸上競技場に於いて開催された第1回全日本盲人健康マラソン大会をきっかけに、初代会長杉本博敬氏を中心に翌1984年9月に協会が創設されました。視覚障がい者のランニング環境を改善するための各種活動を行い、1999年より特定非営利活動法人として事業を展開しています。

■ 活動の効果・普及状況

　視覚障がいのあるなしに関わらず、誰でも楽しく歩き、走るという活動の輪が広がり、活動を支える伴走ボランティアの協力もあり、パラリンピックで活躍するトップランナーも誕生しています。協会は、これからも視覚障がい者がスポーツ活動を楽しむ機会の提供や、チャレンジする環境作りを積極的に進めていきます。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

協会HP　https://jbma.or.jp

アートを通じてその人の物語を知ってほしい

■ 活動する地域

東京都小平市

■ 氏名

齋藤 啓子（武蔵野美術大学）

■ 基礎データ

継続年数	１１年間
活動分野	文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	大学・小平市・社会福祉法人等
団体の規模等	教員２名、学生１０名、その他参加者

活動の概要

障害者自立支援活動の企画・運営・広報に携わり、「関係のデザイン」「参加のデザイン」をテーマに、地域における障害理解の促進と文化芸術振興に寄与してきた。ワークショップや展示企画を通じて障害者が主体的に社会とつながり学ぶ体験を提供することで、新しいコミュニティ形成の場が生まれている。

■ 活動の内容

障害者のアート作品展示「異才たちのアート展」や、けやき青年教室でのワークショップを通じて、障害者と武蔵野美術大学の学生と地域住民が一緒に楽しく何かを作る体験を提供し、好きなものや得意なことからその人らしさや新たな一面を発見することで障害者に対する不安が取り除かれ、障害者が主体的に文化芸術活動に参加できるよう支援しています。障害について専門知識のない学生が障害者にインタビューをし、まずは知るところから始め、障害の種類や一人一人の個性に合わせたコミュニケーションを心がけています。美大生の専門知識を活かして、わかりやすい言葉・イラスト・使いやすい道具や画材を使用し、個人作業だけでなく、周りと協力して作るワークショップは施設からも評価をいただいています。展示ではどうすれば作品を通じて交流が生まれるかを考え、どうすれば障害者に楽しんでもらえるか、どうすれば地域の人に障害者や施設を理解してもらえるかを常に大事にしています。

写真２　「異才たちのアート展2016」会場

写真１　これまで発行した記録集。学生が作ります

■ 活動の経緯・体制

指導者である齋藤啓子は、武蔵野美術大学の専任教員として活躍する傍ら、地域の活動にも積極的に参加しています。障害者のアート作品展示に関わるようになったのも、商店街や社会福祉協議会やまちづくり団体との交流がきっかけでした。様々な関係者を巻き込みながら規模を拡大し、１０年以上活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

反省や課題を共有しあい、相互に広報活動をすることで、障害の有無にかかわらず活動範囲を広げています。２０１７年には市民音楽祭との共同開催が実現し、２０２１年は(株)ブリヂストンと共同で展示を企画するなど、企業とも協力し地域全体で障害について知る仕組みを活性化させています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

https://www.instagram.com/tsudoikodaira/
https://twitter.com/isai_art

アートを通じ障害者の社会参画と生き甲斐の創出を

■ 活動する地域

東京都

■ 氏名

福島 治（東京工芸大学）

■ 基礎データ

継続年数	１１年間
活動分野	文化芸術
主な対象	すべて
主な連携先	福祉施設、特別支援学校
団体の規模等	

活動の概要

障害者が描いたアートを様々な企業や団体に有料で貸し出して障害者の社会参加や収入支援に結び付けたり、著名デザイナーと障害者がコラボした様々な商品を製作したりしている。また、障害者の描いた約500点のアート作品を江東区深川地区の町中に展示する芸術祭を実施した。

■ 活動の内容

障害者の描く個性的なアートを広く社会に知ってもらい、社会参加や収入支援につながる様々な仕組みをデザインしています。公益社団法人日本グラフィックデザイン協会の展覧会委員長として、2018年～2021年の4年間で障害者のアーティストとデザイナーがコラボレーションした500種類もの商品を製作しました。マスキングテープ、タンブラー、ハンカチなどのコラボ商品数千個をチャリティ販売して、障害者のアーティストと一般社団法人日本パラリンピアンズ協会にそれぞれに数百万円を寄付しました。

2020年に江東区深川地区で障害者のアート作品数百点を町中に展示する「アートパラ深川おしゃべりな芸術祭」を発起人、総合プロデューサーとして立ち上げました。地域のボランティア数百人と一緒に予算ゼロから立ち上げた毎年開催する市民芸術祭です。2020年は、9日間で延べ75,000人の方が芸術祭を楽しみました。

写真１　日本グラフィックデザイン協会・展示風景

■ 活動の経緯・体制

１５年前に障害のある人の作品と出会い、アートの魅力を知りました。それと同時に障害者が抱える問題を知り、アートを活かした社会参加や収入支援となる活動を研究、実践してきました。全国のアーティストやご家族に直接お会いして、ヒヤリングも積極的に行っています。

■ 活動の効果・普及状況

障害者の描く作品を見たことがなかった人が、個性的なアートを見て感動し、障害者に対する固定概念を変える効果がありました。また、企業が作品を使ったノベルティ製作やアートレンタルを積極的に採用するケースが増え、収入支援にもつながるようになりました。

写真２　アートパラ深川おしゃべりな芸術祭・受賞式

■ その他（団体紹介や参考情報等）

一般社団法人アートパラ深川
ホームページはこちら　https://artpara.jp/

みんな笑顔に！

■ 活動する地域

東京都

■ 団体名

東京ふうせんバレーボール振興委員会

■ 基礎データ

継続年数	１４年間
活動分野	スポーツ、レクリエーション、学習
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校、小学校等
団体の規模等	基本メンバー５名と他団体の支援

活動の概要

障害のある人もない人も、幼児から高齢者まで一緒に参加して楽しめる、ふうせんバレーボールの活動を展開している。2007年に「健常者と障害者が共にできる九州発祥のふうせんバレーボールを東京で普及してほしい」との声をきっかけに活動を開始し、みんなで楽しめるメニューを考案追加し年間延べ2000人が活動に参加している。

■ 活動の内容

写真１：「ふうせんプールお好きにどうぞ！」

みんなで楽しめるメニューのひとつです。年齢に関係なく沢山のふうせんでルールに縛られず自由に遊ぶ。

体育館だけではなく、少しの空間があれば、会議室、野外でも楽しめます。自由に楽しむことで、一人で楽しむことも、親子で楽しむこともできます。リフレッシュしながら心身能力向上させていくことができます。

写真２：「笑顔のふうせんアタック！」

沢山のふうせんで、１０秒間、ふうせんを打ち合います。投げても、打っても自由、沢山のふうせんを相手コートに入れたほうが勝ち。

単純ですが、はじめての方でも直ぐに楽しめ、競技の要素もあります。

写真１　ふうせんプールお好きにどうぞ！

写真２　笑顔のふうせんアタック！

■ 活動の経緯・体制

全員参加、重度障がいの方や、親子で楽しむことができないかという要望から、ふうせんという柔らかさを活かし、沢山のふうせんと戯れることで、ふうせんプールお好きにどうぞうぞ！、笑顔のふうせんアタック！を考案し、みんなで楽しめるようにした。

■ 活動の効果・普及状況

年齢・性別・心身能力に関係なく、直ぐに楽しめることから、重度障がいで運動のできなかった親子で楽しんだり、全員で楽しめることから、区民祭り・イベントで活用されている。全員参加のルールから「いじめ撲滅」を目的に、学校、小学校放課後教室で活用されている。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

https://fusenvb.webu.jp/

誰もが主役！　スポーツって楽しい

■ 活動する地域

茨城県つくば市

■ 団体名

たいそう教室

■ 基礎データ

継続年数	１７年間
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	筑波大学アダプテッド体育・スポーツ学研究室
団体の規模等	スタッフ10～15名、参加者10～15名

活動の概要

筑波大学アダプテッド体育・スポーツ学（AdS）研究室が、地域の障害のある子ども・青年を対象に開催する運動教室です。毎週１回１時間、筑波大学体育館を主会場として行う定期的な活動と学校の長期休暇（春・夏・冬）期間に開催する季節のイベントがあり、誰もが主役！としてスポーツを楽しんでいます。

■ 活動の内容

地域の障害のある子ども・青年を対象とした運動教室です。毎週１回１時間、筑波大学体育館を主会場として行う定期的な活動と学校の長期休暇（春・夏・冬）期間に開催する季節のイベントを行っています。季節のイベントでは、ウォークラリーとお花見、プールでの活動と夏祭り、クリスマスイベントなどを企画し、年間を通して体を動かすことの楽しさを感じられるプログラムとなっています。

障害があることで、体育の時間や一般のスポーツクラブなどでは楽しめない、参加しづらいという子どもたちに対し、年間計画をもとに参加者１人１人の個別のニーズに着目したプログラムを集団として行うことで、小さな成功体験を重ねていきます。そして、運動に対して積極的「わかる！できる！やってみたい！」になれるような場を提供します。たいそう教室を経て、生涯スポーツとして地域資源を活用したスポーツが楽しめるようになることを目指しています。

写真１　　シュートを決める楽しさ

写真２　　季節のイベント

■ 活動の経緯・体制

地域の小学校に通う特別支援学級児童の保護者からの相談を受け、放課後の余暇支援として有志を募って始まりました。筑波大学AdS研究室代表である齊藤まゆみが責任者となり、複数の教員が専門的見地からアドバイザーを務めています。指導や支援は、同研究室の大学院生を中心とした「たいそう教室」スタッフが行います。

■ 活動の効果・普及状況

発足当時小学生だった参加者はすでに成人となりましたが、季節のイベントに顔を出してくれる方もいます。たいそう教室に在籍する期間は1～１５年で、多くの方が複数年継続して参加し、青年期の運動プログラムへと移行していきます。このように生涯スポーツへの誘いとして貴重な場となっています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

2021年度は、感染症拡大防止対策をとりながら規模を縮小して開催しています！

学生と学級生が共に学び合える憩いの場

■ 活動する地域

名古屋大学教育学部棟

■ 団体名

ちくさ日曜学校

■ 基礎データ

継続年数	４９年間
活動分野	学習、文化芸術
主な対象	知的障害、精神障害、身体障害
主な連携先	名古屋市、名古屋大学教育学部
団体の規模等	学生２０名、学級生３３名

活動の概要

主に精神発達遅滞，自閉症などの障害を持った方々やその親の方たちと，季節をテーマに，レクリエーションや工作，実験など様々な活動を行っています。

毎月第2，４日曜日に活動を行っています。2022年度には，活動開始から50周年を迎え，継続して支援の輪を広げています。

■ 活動の内容

私たちちくさ日曜学校は、”障害者にも教育の場を”という願いのもとに、毎月第２、４日曜日に主に精神発達遅滞、自閉症などの障害をもった方々やその親の方たちと、さまざまな活動を行っています。

近年では身近な行事、季節をテーマとした工作、実験、レクリエーションを行っております。例えば，磁石の仕組みをスライド・実物に触れることを通して学習して、その後マグネットカーを作るなどの活動を行いました。磁石の仕組みをあらかじめ勉強することでスピードを出すための工夫を自分なりに考えることを促しました。このように工作をしてそれを使って遊んで終わりではなく、仕組みの学習や工作物の発表・意気込みを発表する機会を設けることを意識しています。参加者の学びの意欲を刺激する・社会生活を営む上で必要な能力を伸ばすことを援助することを目的としてレクリエーションの企画・活動を行っています。

写真２　　通常教案集合写真

写真１　　1100回記念パーティーでの集合写真

■ 活動の経緯・体制

「障害者にも教育の場を」という願いのもとに1972年11月名古屋大学の学生有志の手で発足しました。当初は障害者に学びの場を提供することを重きにした活動を行っていました。障害者基本法の成立によって障害者の就学支援制度が整い始めた以降は学びの場を提供するだけでなく余暇活動充実の側面も担っています。

■ 活動の効果・普及状況

現在は月2回，日曜日に工作や実験，レクリエーションなどの教案活動を行っています。学級生と学生，その保護者方との交流も積極的行われ，にちがくに関わるメンバー全員がそれぞれにとって「居心地の良い場所」になるように活動しています。定期的に新たな方が参加し、新しい風が常に吹いている団体です。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

Twitter @chikusanichigak

「からだを動かすって楽しい！」と誰もが感じられるように

■ 活動する地域

大阪府泉州地域

■ 団体名

大阪体育大学
わくわくアダプテッド・スポーツクラブ

■ 基礎データ

継続年数	５年間
活動分野	スポーツ
主な対象	すべて
主な連携先	特別支援学校など
団体の規模等	参加者 約10名／スタッフ約20名

活動の概要

特別支援学校の生徒と卒業生を対象とし、月2回程度の運動プログラムを実施している。活動は学生が主体となって企画・実践し、特別支援教育やアダプテッド・スポーツ科学を専門とする教員が助言している。一人ひとりに合わせた身体活動・スポーツの面白さや達成感を味わい、余暇や生涯スポーツの土台形成につながっている。

■ 活動の内容

年間を通して、月に2回、一回90分程度の活動プログラムを展開できるように計画しています。学校以外の場で身体活動やスポーツを「楽しい」「またやりたい」と思えるような活動を創ることを心がけています。

プログラムは、準備運動と動きづくり的な活動（約30分）から始まり、個別の活動（約30分）、全体での活動（約30分）という流れで行っています。個々の参加者の実態は異なりますが、アダプテッド・スポーツの手法を用いて、それぞれのニーズに合わせた活動を心掛けています。本事業では体力や運動技能を向上させることを主な目的とするのではなく、スタッフと楽しく身体を動かす経験を重ね、心地よい時間を過ごすことを大切に考えています。活動を通して運動の面白さや達成感を味わったり，成功体験を重ねたりすることで、日常生活や余暇の時間にも身体を動かす機会が増え、参加者の豊かなスポーツライフにつながることを期待しています。

写真１　全体活動前には恒例の掛け声

写真２　新しい競技にも挑戦

■ 活動の経緯・体制

特別支援学校に在籍する障がいのある中高生、卒業生が個々のニーズに合わせて身体活動・スポーツを体験することで生涯スポーツの礎を作ることを目的に2016年夏シーズンより活動を開始しました。
活動の企画・運営は大阪体育大学の学生が主体となり担っています。

■ 活動の効果・普及状況

一人ひとりの実態に合わせた活動を心掛けています。スタッフや設備，プログラム内容などを含めた活動の場が安心できる環境だからこそ、新しいことに挑戦したり、自信をもって取り組めたりできていると実感しています。活動をきっかけにスポーツ中継を熱心に観戦するなど、スポーツに親しむ機会が増えていると感じます。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

コロナ禍においても、楽しく身体を動かす活動を充実させようと、オンラインでの活動にも取り組んでいます。

生活経験の拡大を図る４５年にわたる継続的な活動

■ 活動する地域

愛媛県松山市

■ 団体名

愛媛大学教育学部
附属特別支援学校同窓会（虹の会）

■ 基礎データ

継続年数	４５年間
活動分野	学習、スポーツ等
主な対象	知的障害
主な連携先	愛媛大学教育学部附属特別支援学校
団体の規模等	会員約95名、ボランティア約30名

活動の概要

卒業生同士の交友を深め、様々な活動をとおして社会生活に必要な知識・マナーの習得を図り、生活経験の拡大を図ることを目的に活動しています。原則、活動は毎月１回。生涯学習活動としてテーブルマナー講座や地域の文化財散策、芸術体験・鑑賞、スポーツなどで、毎回約４０名が参加しています。

■ 活動の内容

愛媛大学教育学部附属特別支援学校同窓会（虹の会）の会員は、愛媛大学教育学部附属小学校・愛媛大学教育学部附属中学校の特殊学級及び愛媛大学教育学部附属養護学校・附属特別支援学校の中学部・高等部の卒業生、１年以上高等部に在籍していた生徒で所定の会費を納入した者及び愛媛大学教育学部附属特別養護学校・附属特別支援学校教職員・旧職員、愛媛大学教育学部附属特別支援学校親の会会員で構成しています。

原則として毎月１回、テーブルマナー講座、地域の文化財散策・巡検、芸術体験・鑑賞、バス利用による巡検、スポーツ等の生涯学習活動を実施しています。平均して、毎回約４０人の参加がありました。

現在は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今までのような活動ができていませんが、「虹の会通信」を発行して会員相互の交流を行っています。感染が収束したときは、今までのような活動を再開したいと考えています。

写真１　テーブルマナーを学んでみんなで楽しく食事

写真２　巡検で呉市の大和ミュージアムにも行きました

■ 活動の経緯・体制

会員同士の交友を深めるとともに、様々な活動を通して社会生活に必要な知識・マナーの習得を図り、生活経験の拡大を図ることを目的として設立されました。相互交流・親睦の維持や生涯学習による社会生活向上をめざし、総会にて事業、決算・予算の承認を得て、役員（会員から選出）を中心に実施・活動しています。

■ 活動の効果・普及状況

会員は活動を楽しみにしています。会員相互や附属特別支援学校教職員との情報交換もでき、附属特別支援学校生徒の進路設計において参考となっています。テーブルマナー講座は飲食業界、地域の文化財散策・巡検は文化財保護活動団体、芸術体験・鑑賞活動は地域の演奏家、バス利用の巡検は観光業界の協力を得ています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

愛媛大学教育学部附属特別支援学校
https://tokushi.edc.ehime-u.ac.jp/tokushihp/

「観る」「支える」「体験する」「挑戦する」

■ 活動する地域

福岡県福岡市

■ 団体名

福岡大学

■ 基礎データ

継続年数	１２年間
活動分野	スポーツ
主な対象	（精神・視覚・聴覚・切断）障害者
主な連携先	病院・企業・NPO法人等
団体の規模等	500名（参加者250名、運営250名）

活動の概要

障害者スポーツの実施支援とさらなる普及を目的に、ソーシャルフットボール大会と障害者スポーツ体験・交流イベントを組み合わせた活動「ふれあいスポーツフェスタ in 福岡大学」を行っています。2019年には、約250名の選手が参加しており、本学は総合大学の強みを活かしてスポーツと医学の両面からサポートしています。

■ 活動の内容

障害のある方誰もがスポーツを楽しめる環境が十分に整っていない現状に対して、本学は地域の拠点としてスポーツ施設を開放し、障害者のスポーツ機会の創出に取り組んでいます。

イタリアでは、1990年代から精神障害者の症状の安定や社会生活の回復のために、サッカーを治療に取り入れており、この事例を参考にして、2008年から12年にわたり精神障害者の方を対象とした大会を開催しています。

2018年から大会と同時並行で開催している障害者スポーツの体験イベントでは、本学学生や地域の子どもたちをはじめ、多様な障害を持つ方々が入り混じってプレーすることで、お互いへの理解を深めています。

九州ソーシャルフットボール協会をはじめとする各障害者サッカー協会・医療機関・企業・NPO法人・民間団体等と連携し、参加者の誰もが「観る」、「支える」、「体験する」、「挑戦する」ことができる取組を実施しています。

写真１　障害者サッカー体験イベント

写真２　参加者全員での一枚

■ 活動の経緯・体制

2008年に福岡大学病院で「第1回九州スカンビオカップ」を開催し、第2回大会からは福岡大学、障害者サッカー協会、企業等が協力して運営に携わっています。

2018年以降、障害者スポーツの体験イベントを大会同日に開催し、障害の有無や種類に関わらず、お互いを理解し合うことを目的とした活動を行っています。

■ 活動の効果・普及状況

選手が大会出場という目標を作ることで治療や服薬に前向きになる効果があるとともに、集団行動を経験できる貴重な社会体験の場にもなっています。大会には、九州他県や四国のチームも参加しており、年々広がりを見せています。将来的には、7種の障害者サッカー全てを同時に実施できる大会を目標としています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

https://www.fukuoka-u.ac.jp/community/column/20/01/17154852.html

毎週金曜日の発達障害のある児童生徒への支援

■ 活動する地域

熊本県熊本市

■ 団体名

九州ルーテル学院大学金曜教室

■ 基礎データ

継続年数	１８年間
活動分野	学習、余暇、就職準備、メンタルサポート
主な対象	発達障害のある児童生徒
主な連携先	学校、病院、親の会　等
団体の規模等	３２名（大学生２８名、顧問・指導者４名）

活動の概要

毎週金曜日の夕方に、発達障害のある児童生徒を対象として、個別に学習支援や余暇支援、就職準備に向けた支援、メンタルサポートを行っています。2003年の活動開始から延べ200名以上の児童生徒の支援を行い、継続希望者の大半が小学生から高校生までの間、継続して支援を受けています。

■ 活動の内容

1．活動日時：毎週金曜日の18：30～20：10
（40分／時間の2コマ、休憩10分）
2．活動場所：九州ルーテル学院大学
3．支援内容：
①学習支援
対象児者の学校・家庭での学習状況を把握し、障害特性を踏まえた支援を行っています。
②余暇支援
大学近郊での買い物・軽食等による金銭を使用した余暇への興味意欲の向上を図り、これらが継続したり、発展するよう促しています。
③就職準備に向けた支援
卒業後の就職を踏まえ、運転免許の学科試験の支援やSPI対策の支援等を行っています。
④メンタルサポート
年代の近い学生ボランティアが、対象児者の関心や話題、あるいは不安等を傾聴し、協働活動を通した心理的支援や助言を行うなど、対象児者のストレスマネジメントを促しています。

写真２　高校生への支援の様子

写真１　中学生への支援の様子

■ 活動の経緯・体制

当時県内には、発達障害のある児童生徒への学校以外での個別の学習支援の場が皆無であったことから、支援を開始しました。全体で20名以上の学生ボランティアを毎年確保し、大学の専門教員等の指導助言のもと、年度始めの研修、学期ごとの総括ミーティングなども実施して個別の支援活動を展開しています。

■ 活動の効果・普及状況

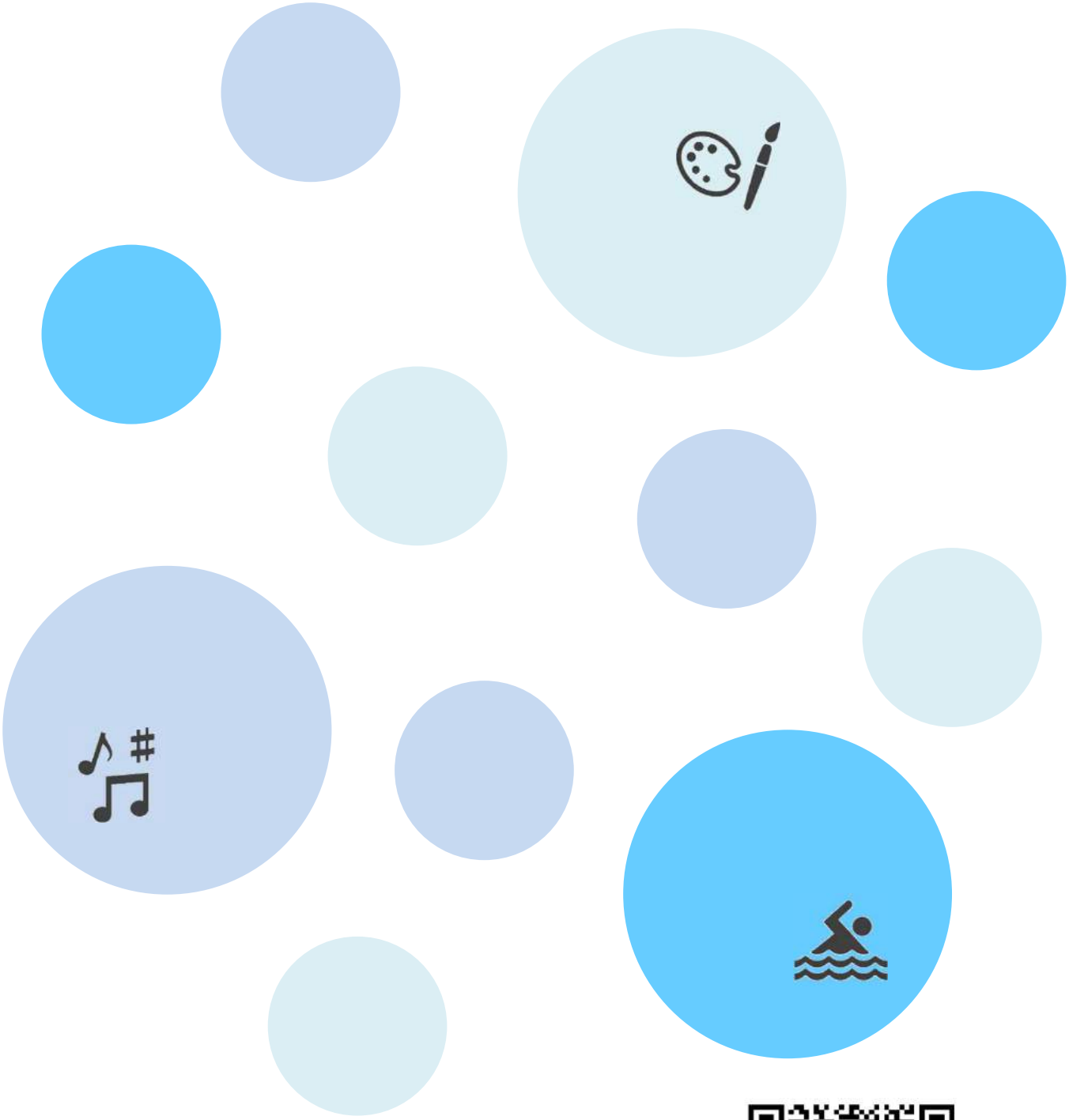
学生ボランティアとの関わりによって、対象児者は精力的に課題に取り組み、学校で抱えたストレスの緩和・解消の一助にもなっており、小学生からの参加者は高校卒業まで継続して参加しています。本活動は、熊本市近郊の学校、医療機関、当事者親の会等に認知され、これらの紹介等によって対象児者を受け入れています。

■ その他（団体紹介や参考情報等）

今後も一人一人の対象児者に寄り添った支援を展開できるように頑張ってまいります。

文部科学省Webサイトでは、
障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。
是非ご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm



障害者の生涯学習 検索